



一般入試 学生募集要項

平成30年度(2018年度)

群馬大学
GUNMA UNIVERSITY



周囲は群馬県の象徴である名勝赤城、榛名、妙義の上毛三山を浮き彫りさせて大学を囲み、群馬大学の象徴としました。

入 試 情 報

■群馬大学ホームページ <http://www.gunma-u.ac.jp/>

- 「入試案内」において、以下の情報等を時期に応じてお知らせしています。
- 学生募集要項
 - 進学相談会・オープンキャンパス等各種イベント案内
 - 入試実施状況、入試統計資料
 - 入学時の経費（入学科・授業料等）、奨学金情報
 - 過去の入試問題
 - 資料請求方法

入学試験に関する問合せ先

受付時間 8時30分から12時、13時から17時15分（土・日曜日、祝休日、年末年始を除く）
本学は主体的に学ぶ姿勢を持つ学生を求めています。問合せは、原則として志願者本人が行ってください。

■本要項及び入学試験全般に関するお問合せ

学務部学生受入課

電話 027-220-7150、7151、7152 / FAX 027-220-7155 〒371-8510 前橋市荒牧町4-2

■各学部入試担当係

○教育学部（教務係）

電話 027-220-7223 〒371-8510 前橋市荒牧町4-2

○社会情報学部（教務係）

電話 027-220-7404 〒371-8510 前橋市荒牧町4-2

○医学部（昭和地区事務部学務課入学試験係）

電話（医学科）027-220-8910 } 〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22
（保健学科）027-220-8909 }

○理工学部（学務係）

電話 0277-30-1037 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1

LINEとTwitterから入試情報をリアルタイムでお届けします。



http://lineat.jp/gunma_uni_ad



https://twitter.com/gunma_uni_ad

【群馬大学志願者の入学検定料免除について】

群馬大学では、東日本大震災及び風水害等の災害に罹災した志願者の進学を支援する観点から、特別措置として検定料の全額を免除します。

免除の対象となる災害及び被災地域など、免除に関する詳細については、本学のホームページを御覧ください。

— 本募集要項の概要について —

この要項は、平成30年度群馬大学一般入試を受験する方のために作成したものです。

一般入試は、前期日程・後期日程に入学試験を実施する分離・分割方式でそれぞれ入学者を募集し、選抜を行います。

選抜方法は、大学入試センター試験及び個別学力検査等を組み合わせ、更に調査書の内容を加え総合判定することを基本とします。具体的な試験教科・科目等については、各学部・学科・専攻ごとに定めています。

— 一般的注意事項について —

出願に先立ち、志望する学部・学科・専攻が大学入試センター試験で課している教科・科目を確実に受験しているか、チェックをしてください。

- この募集要項には、出願から入学手続きまでの諸手続を詳しく記載してあります。内容を取り違えないようよく読んでください。
- この募集要項には、試験当日の時間割や試験場までの経路等が記載してありますので、試験当日は持参し、参考にしてください。
- 試験前日又は試験当日に、最寄りの駅・バス停から試験場周辺にかけて勧誘や物品の販売等をしていることがありますが、これらの行為は群馬大学とは何ら関係がありません。不当な料金を請求される等のトラブルに巻き込まれないよう十分注意してください。
そのような事故が生じても、群馬大学は一切責任を負いません。
- 書類の提出に関する問合せ等は、学務部学生受入課又は志望学部で受け付けています。志願者は、次の所在地、電話番号へ問合せください。なお、電話による問合せは、土・日曜日、祝休日、年末年始を除く8時30分から12時、13時から17時15分までの間とします。
本学は主体的に学ぶ姿勢を持つ学生を求めています。問合せは、原則として志願者本人が行ってください。
- 試験の実施に関しての不測の事態（災害・事故等）が生じた場合は、本学ホームページ（入試案内）に掲載しますので、御確認ください。なお、追試験は、原則実施しません。
群馬大学ホームページ：(http://www.gunma-u.ac.jp/)

LINEとTwitterから入試情報を、リアルタイムでお届けします。



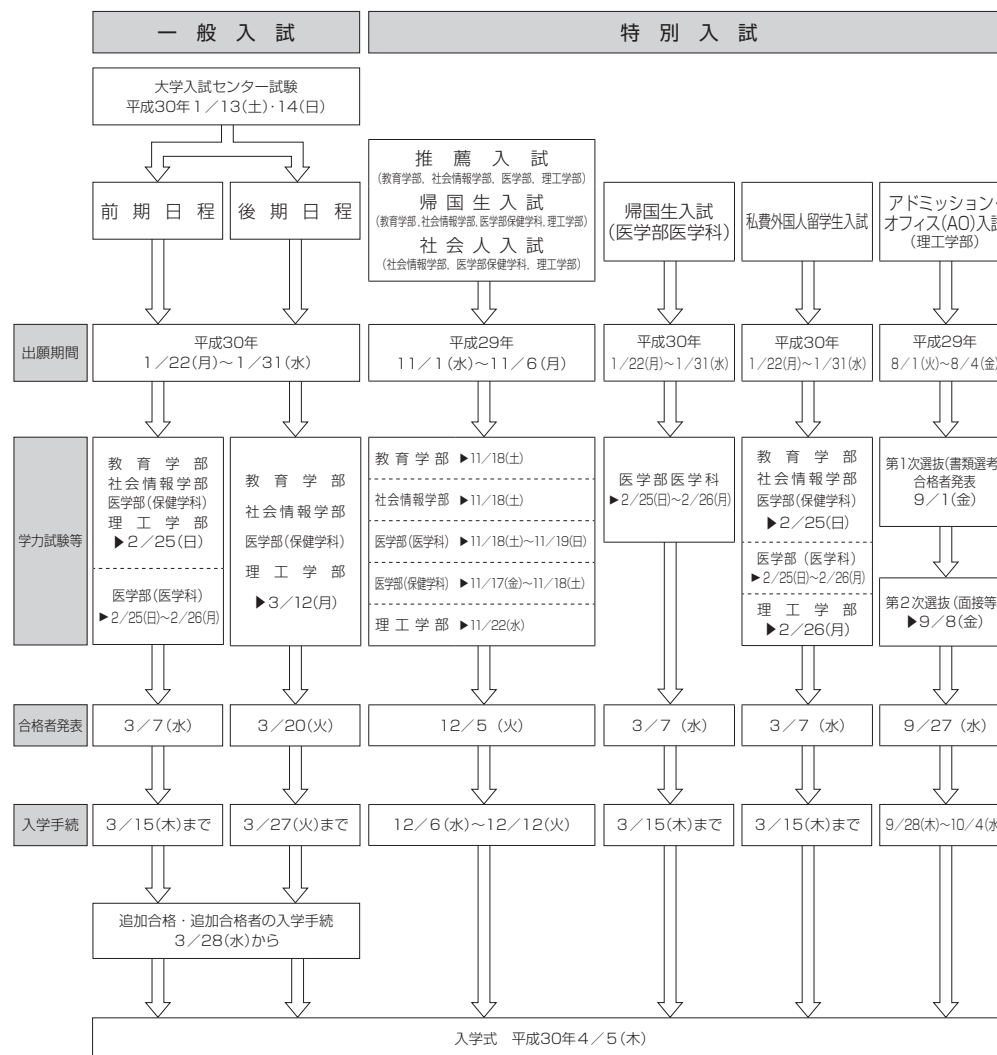
https://page.line.me/gunma_uni_ad



https://twitter.com/gunma_uni_ad

部局の名称	所在地	電話
学務部学生受入課	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	027-220-7150、7151、7152
教育学部教務係		027-220-7223
社会情報学部教務係		027-220-7404
医学部	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	027-220-8910（医学科）
昭和地区事務部学務課入学試験係		8909（保健学科）
理工学部学務係	〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	0277-30-1037

群馬大学入学者選抜日程の概要



本学では、これらの入学者選抜のほか、編入学試験を実施します（教育学部を除く）。
詳細については、裏表紙「入学試験に関する問合せ先」の各学部入試担当係へ問合せください。

目 次

◎群馬大学の教育ポリシー	1
◎各学部の教育ポリシー	3
◎ 一 般 入 試	
I 共 通 事 項	
1. 入学定員（募集人員）	10
2. 過年度の大学入試センター試験成績	11
3. 複数受験について	11
4. 出願資格等	11
○出願資格	
○医学部医学科地域枠の対象者要件	
○大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等	
5. 出願手続	21
6. 受験票について	28
7. 障害等のある入学志願者との事前相談について	28
8. 出願上の注意事項	28
9. 個別学力検査等試験日	28
10. 合格者発表	29
11. 追加合格	29
12. 欠員補充第2次募集	29
13. 入学手続	29
14. 入学志願者の個人情報保護について	31
15. 入試過去問題の利用について	32
[参考] グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラム	33
II 教 育 学 部	
1. 志望方法	34
2. 選抜方法	35
3. 注意事項	41
4. 個別学力検査等試験場までの交通について	41
5. 受験心得	42
III 社 会 情 報 学 部	
1. 志望方法	43
2. 選抜方法	43
3. 注意事項	44
4. 個別学力検査等試験場までの交通について	45
5. 受験心得	46
IV 医 学 部	
1. 志望方法	47
2. 選抜方法	51
3. 注意事項	53
4. 個別学力検査等試験場までの交通について	54
5. 受験心得	55
V 理 工 学 部	
1. 志望方法	56
2. 選抜方法	56
3. 注意事項	59
4. 個別学力検査等試験場までの交通について	59
5. 受験心得	60

群馬大学の教育ポリシー
各学部の教育ポリシー

I 共通事項

II 教育学部

III 社会情報学部

IV 医学部

V 理工学部

各学科・専攻の
教育ポリシー

◎各学科・専攻の教育ポリシー

教育学部	
国語専攻	62
社会専攻	64
英語専攻	66
数学専攻	68
理科専攻	70
技術専攻	72
音楽専攻	74
美術専攻	76
家政専攻	78
保健体育専攻	80
教育専攻・教育心理専攻	82
障害児教育専攻	84
医学部保健学科	
看護学専攻	86
検査技術科学専攻	88
理学療法学専攻	90
作業療法学専攻	92
理工学部	
化学・生物化学科	94
機械知能システム理工学科	96
環境創生理工学科（環境エネルギーコース）	98
環境創生理工学科（社会基盤・防災コース）	100
電子情報理工学科（電気電子コース）	102
電子情報理工学科（情報科学コース）	104
総合理工学科	106
[添付書類]	
○ 前期日程出願用書類等	
○ 後期日程出願用書類等	

必ずお読みください

群馬大学の教育ポリシー

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜入学者に求める能力・資質＞

群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある。
- 2 専門分野を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心、コミュニケーション能力を持っている。
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている。
- 4 知的な好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
- 5 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている。
- 6 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。

＜入学者選抜の方針・方法＞

群馬大学は、本学で学びたい学生に対し、その多面的な能力を評価し選抜するために、多様な受験機会・入学試験を提供します。また、本学の国際化推進基本計画に基づいて、海外からの留学生を積極的に受け入れる方針の下、受験機会を提供します。

本学の教育の目標、求める能力・資質に合致する学生を選抜するために、一般入試（前期・後期）の他に、特別入試としてAO入試、推薦入試、帰国生入試、社会人入試、私費外国人留学生入試、3年次編入入学試験等の入学試験を実施します。本学の入学試験では、それぞれの学部・学科・課程の専門・特性に合わせて、大学入試センター試験、個別学力検査、実技等試験、調査書、活動歴、面接、小論文等を組み合わせて、総合的に合否を判断します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育課程編成と教育方法＞

全学的な協力体制の下、教養教育と専門教育の融合を図り、幅広く深い教養、豊かな知性と感性、総合的な判断力、専門分野の基礎的能力を育成するため、学生の潜在能力を最大限引き出せる教育課程を編成し、実施します。本学の基本理念及び教育の目標を達成するために、本学の教育課程(カリキュラム)は以下の方針で編成されています。

- 1 カリキュラム・ポリシーを具現化するカリキュラム・マップに従った系統的な教育と、授業科目の目標・内容・教育方法・達成度(成績)評価方法等について詳述されたシラバスに基づいた教育を実施し、アクティブ・ラーニング等の学生の自主的な学修意欲を促す教育、授業時間外自己学修や学修の振り返りを促す教育等を幅広く行う。
- 2 学士課程教育においては、全学共通の教養科目、学部別科目(専門基礎科目、一部の学部で開設)及び専門科目、加えて学部独自の教養教育科目を、互いの融合を図りながら編成する。
- 3 全学共通の教養科目は、学士力の育成の基礎となる教養基盤科目と、幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性の涵養につながる教養育成科目の二つの科目群から構成される。個別の領域の知識を学ぶのではな

必ずお読みください

各学部の教育ポリシー

教育学部

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

- 1 教職を目指す明確な意志と情熱を有する人
- 2 児童・生徒の成長に関わることに喜びを感じられる人
- 3 周囲とのコミュニケーション能力や協調性を備える人
- 4 諸課題の解決に向けて粘り強く努力できる人
- 5 系・専攻に関する事項に関心を持ち、教職を目指すために必要な基礎学力を有する人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

- 1 学校教員に求められる幅広い教養を培う教育
- 2 教育に関わる様々な理論に裏付けられた、現実の教育問題を考える力を養う教育
- 3 教科についての専門的知識を高める教育
- 4 教科指導法など、学校教員として必要となる知識・技術を培う教育
- 5 教育実習などの体験的学習を通して、実践的指導力を養う教育
- 6 卒業研究を通して、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を養う教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

- 1 優れた人間性と豊かな教養を有している者
- 2 各教科の内容について、深い認識を有している者
- 3 各教科について、実践的な指導力を有している者
- 4 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有している者
- 5 子どもの成長・発達とそれを支える大人の役割について、十分に理解している者
- 6 子ども、親、同僚などとコミュニケーションをとることができる者

※各専攻の教育ポリシーについては、62～85ページ参照。

く、それらを統合していく考え方の修得及び各学問分野に共通の思考・判断・表現法の修得につながる教育を行うことにより、学生が自らの教養と主体性を構築していくことを促し、また外国語も含めた汎用的技能の基盤を培い、アイデンティティの確立した知識人としての考え方ができる人材を育成する教育を行う。

4 専門教育を学ぶ上で必須となる基礎的知識や技能の修得を目的に、高校教育と大学における専門教育との円滑な接合を助け、その分野の基本的リテラシーについて学ぶ教育を行う。また、専門分野に関連する分野についての基礎的理解と新しいアイデアを引き出すことに役立つ知識・技能の修得を図り、専門分野の知識・理解・技能の質の更なる向上を目指す教育を展開する。

5 専門科目においては、次の能力の養成に向けた教育を行う。

- (1) 専門分野の内容、社会的意義と限界を深く理解し、他者に説明・表現できる能力
- (2) 専門分野に関係する諸分野についての基礎的理解があり、客観的な評価ができる能力
- (3) 自らの専門分野の視点から現代世界が直面する諸変化の特性・特質を理解し、生起する諸課題について探究し、課題解決に実践的に取り組んでいくことができる能力

<学修成果の評価>

シラバスに記載の達成度(成績)評価方法に基づいて行います。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<卒業認定・学位授与の条件>

- 1 以下の学修達成目標及び所属する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。
- 2 所定の年限在学し、かつ所属する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。

<学修成果の目標>

専門的学識、技能

- 1 所属する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的学識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。

幅広い教養、学際性

- 2 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。

論理的思考力、コミュニケーション力

- 3 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。

社会人としての自覚、国際性

- 4 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。

必ずお読みください

社会情報学部

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

社会で情報が生産・流通・加工・蓄積・活用される過程に関する知識を有し、批判的な思考・判断によって高度情報社会の課題を発見し、その解決を科学的な思考と実践的な情報処理やデータの収集・分析によって提案できる人材の育成

＜入学者に求める能力・資質＞

- 1 社会の仕組みや情報技術に関する基本的な知識を持つ人
- 2 科学的な考え方や基本的な分析手法を身に付けている人
- 3 思考力・表現力の基礎となる言語運用能力を身につけている人
- 4 高度情報社会の在り方や望ましい発展に関心がある人
- 5 情報処理能力やデータの収集・分析能力を身に付けようとする人
- 6 外国語運用能力の向上と多文化の理解に関心がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

入学試験で選択した科目に限らず幅広く学習していることが望ましい。国語や数学、英語、地理歴史、公民、理科等を学習し、さらに広く情報社会の出来事に関心を持つようにしておくことが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

- 1 大学での学修に必要な基礎的な学力や学修の方法・技術を修得させ、多角的な視点から問題を探究する姿勢を身に付けさせる教育
- 2 専門教育を支える十分な社会情報学的な思考方法を醸成する教育
- 3 情報リテラシーやデータ収集・分析能力、外国語運用能力等を養成する教育
- 4 高度情報社会の特質を専門的・多角的に読み解く力や問題解決能力を養成する教育
- 5 自ら設定したテーマに沿って調査・研究活動を進め、それを論文や提案として結実させる能力を養成する教育

＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養基盤科目、教養養成科目により基礎的素養を身に付ける教育を展開する。また、専門教育の基礎となるコア科目及びスキル系科目を学修させ、教養教育から専門教育へのスムーズな導入を図る。
- 2 これを基盤として、教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実習の各科目
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた講義時間外の自己学習（予習・復習）の督促

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従い S、A、B、C、D の 5 段階での判定とこれを基にした GPA の決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。
上記のことを前提に、国立大学唯一の社会情報学部であることから、学士に求められる能力評価の一般的な基準を参考にしつつも、高度情報社会において有用な能力を獲得したかどうかを厳しく評価することとする。

＜学修成果の目標＞

- 1 社会で情報が生産・流通・加工・蓄積・活用される一連のプロセス（社会情報過程）に関する知識を有し、課題を理解できること
- 2 情報社会に生起する組織や地域社会の諸課題に関心を持ち、その解決に意欲を持つこと
- 3 科学的・批判的に思考・判断する能力を有し、自ら得た知見を分かりやすく説明・伝達する能力を備えていること
- 4 実践的な情報処理能力と課題に即したデータの収集・分析能力を有し、適切な考察を行うことができること
- 5 外国語運用能力を有し、国内外で活躍できること

必ずお読みください

医学部医学科

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることをふまえ、医学生として、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって自己研鑽に励むことができる人

- 1 豊かな感受性、奉仕の精神を備え、医師としてふさわしい資質を身につけることを目指して、不断の努力を積み重ねられる人
- 2 医療、医学研究、医学教育もしくは医療行政などの分野において、社会に貢献することへの志と強い信念を持っている人
- 3 本学科の教育内容を理解するために必要な総合的基礎学力を十分に備えている人

<入学に際し必要な基礎学力>

特に日常的な学習が十分に行われていることが望ましいのは、国語と英語である。専門科目を学ぶために必要となるのは、数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bであり、理科では、受験科目にかかわらず、物理(物理基礎を含む)、化学(化学基礎を含む)、生物(生物基礎を含む)である。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽する力が付く教育

- 1 自分をふりかえり他者を思いやる心が育ち、コミュニケーションを通して相互理解を図る態度が身に付く教育
- 2 自然科学、医学、医療、人間と社会にかかわる知を習得し、それを実践でいかす力が身に付く教育
- 3 新たな課題にも対応できる問題解決能力が身につく、リサーチマインドが育つ教育
- 4 生涯にわたって社会貢献と自己研鑽に努める意欲が育つ教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽を続けることができる者

- 1 医師にふさわしい倫理観と責任感を有し、医療チームの中で医師として適切な行動をとることができ、他者と信頼関係を築ける者
- 2 医師、医学研究者、医学教育者又は医療行政担当者となるために必要な知識を身に付けるとともに、新たな課題にも対応できる問題解決能力を修得した者
- 3 医学知識に裏打ちされた臨床と研究の能力を修得し、患者により良い医療を提供する能力と、医学や医療の発展に貢献する意欲を備えた者

必ずお読みください

医学部保健学科

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

- 1 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
- 2 本学科での学修を通して、学士(看護学・保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
- 3 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
- 4 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
- 5 看護師・助産師・保健師、臨床検査技師・細胞検査士、理学療法士、作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
- 2 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
- 3 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
- 4 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
- 5 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

- 1 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

知性と行動力を備えた人間性豊かな保健医療人材の育成を目指し、次のような教育を行います。

- 1 全人的医療の担い手としての人間性の涵養と、専攻分野で必要な基礎力の育成を図る教育
- 2 専門教育では基礎から臨床に亘る階層的知識の積み上げを図るとともに、先端の保健医療の学習にも配慮する教育
- 3 保健医療の担い手としての主体的思考・行動力と豊かな感性を持つ人材育成を図る教育
- 4 チーム医療の担い手としての意識と、そこで必要な能力の育成を図る教育
- 5 保健医療の諸課題に対応できる地域的視点と国際的視野を持つ人材育成を図る教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得し、各専攻のディプロマ・ポリシーが規定する学識と能力を持つ次のような者に学士の学位を授与します。

- 1 保健医療の中核を担う専門職業人となるために必要な知識と技術を備え、人間の尊厳を尊ぶ心を持つ者
- 2 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させてゆく意欲と自己開発力を持つ者
- 3 チーム医療を担う自覚を有し、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係が築ける者
- 4 保健医療の諸課題に対し、多面的視点からの柔軟な思考、的確な判断と対応ができる者

※各専攻の教育ポリシーについては、86～93ページ参照。

必ずお読みください

理工学部

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

- 1 誰も行ったことのない新しいことに挑戦することが好きで、失敗をおそれない人
- 2 自らの能力向上を目指し、そのための労を惜しまない人
- 3 自然現象や科学技術などに興味があり、それらを通じて自然科学の原理原則を最後まで追究したい人
- 4 理工学を学ぶ上での基礎学力を有し、理学的基盤(数学、物理学、化学、生物学など)の理解を基に新理論・新技術の開発にチャレンジしたい人
- 5 理工学分野で国際的な活躍を目指す人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

世界の知的基盤を担う創造性豊かな人材を育成するため、学生と教員との緊密なつながりを基本として、次のような教育を行います。

- 1 理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育
- 2 国際的な水準を満たし、かつ各教員の特長を活かした教育
- 3 個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育む教育
- 4 国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成する教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

- 1 自然や社会の理解に関する俯瞰的・論理的な見方や考え方を修得した者
- 2 理工学に関する基礎および専門的な知識を修得した者
- 3 社会の中で専門分野の知識を活かし、未知なるものの探求、新たなものの創生や諸課題の解決に取り組める者
- 4 他者の意見を理解し、自らの意見を伝え、外国の人ともコミュニケーションができる素養をもつ者

※各学科の教育ポリシーについては、94～107ページ参照。

◎一般入試

I 共通事項

1. 入学定員（募集人員）

学部	学科・課程・専攻	入学定員	募集人員							備考		
			特別入試					一般入試				
			アドミッション・オフィス(AO)	推薦入試	一般入試(専門学科・総合学科を含む)	専門学科・総合学科	帰国生	社会人	私費外国人留学生		前期日程	後期日程
学校教育員養成課程	文化 社会系	220										※教育人間科学系の募集人員については下記のとおりです。 ①前期日程16名については、おおむね教育専攻3名 教育心理専攻3名 障害児教育専攻10名を目安とします。 ②後期日程8名については、おおむね教育専攻3名 教育心理専攻2名 障害児教育専攻3名を目安とします。
	国語専攻		-	6	-	-	-	若干名	15	3		
	社会専攻		-	5	-	-	若干名	-	若干名	17	4	
	英語専攻		-	-	-	-	-	若干名	12	3		
	自然 情報系											
	数学専攻		-	5	-	-	若干名	-	若干名	18	2	
	理科専攻		-	4	-	-	若干名	-	若干名	17	5	
	技術専攻		-	-	-	-	-	-	若干名	7	4	
	芸術表現系											
	音楽専攻		-	2	-	-	若干名	-	若干名	9	4	
	美術専攻		-	2	-	-	若干名	-	若干名	9	4	
	生活 健康系											
	家政専攻		-	-	-	-	-	-	若干名	11	4	
	保健体育専攻		-	5	-	-	-	-	若干名	12	3	
教育 人間系												
教育専攻	-	-	-	-	-	-	若干名	16	8			
教育心理専攻	-	-	-	-	-	-	若干名					
障害児教育専攻	4	-	-	-	-	-	若干名					
計	220	-	33	-	-	若干名	-	若干名	143	44		
社会情報学部	社会情報学科	100	-	28	-	若干名	若干名	若干名	56	16		
	計	100	-	28	-	若干名	若干名	若干名	56	16		
医学部	医学科	108	-	35	-	若干名	-	若干名	73	-		
	看護学専攻	80	-	30	-	若干名	若干名	若干名	33	17		
	検査技術科学専攻	40	-	9	-	若干名	若干名	若干名	22	9		
	理学療法学専攻	20	-	8	-	若干名	若干名	若干名	8	4		
	作業療法学専攻	20	-	8	-	若干名	若干名	若干名	8	4		
	小計	160	-	55	-	若干名	若干名	若干名	71	34		
	計	268	-	90	-	若干名	若干名	若干名	144	34		
理工学部	化学・生物化学科	160	2	60	-	若干名	-	若干名	86	12		
	機械知能システム理工学科	110	4	33	-	若干名	-	若干名	60	13		
	環境創生理工学科	90	2	28	-	若干名	-	若干名	50	10		
	電子情報理工学科	120	5	35	-	若干名	-	若干名	70	10		
	総合理工学科(フレックス制)	30	-	-	-	-	若干名	-	27	3		
計	510	13	156	-	若干名	若干名	若干名	293	48			
合計	1,098	13	307	-	若干名	若干名	若干名	636	142			

注1 アドミッション・オフィス(AO)入試の入学手続者が募集人員に満たない場合は、原則として、推薦入試の募集人員に、この満たない人数を加えます。
 2 推薦入試の入学手続者が募集人員に満たない場合は、原則として、前期日程の募集人員に、この満たない人数を加えます。
 3 医学部医学科の推薦入試の募集人員35名には地域医療枠10名程度、前期日程の募集人員73名には地域医療枠6名程度を含みます。
 4 理工学部総合理工学科(フレックス制)では、夜間開講科目の履修のみで卒業することができます。
 また、夜間開講の必修・選択科目と昼間開講の選択科目を履修して卒業することもできます。

2. 過年度の大学入試センター試験成績

過年度の大学入試センター試験の成績は、利用しません。

3. 複数受験について

(1) 国立大学・学部への出願

志願者は、一般入試においては「前期日程」、「後期日程」からそれぞれ1つの計2つの大学・学部に出願することができます。
 ※公立大学においては、協会ホームページ (<http://www.kodaikyoo.org/>) 参照

(2) 学内併願

本学では、前期・後期の学内併願を各学部ともに認めます。

4. 出願資格等

○出願資格

次の①から⑩のいずれかに該当し、本学が指定する平成30年度大学入試センター試験の教科・科目を受験した者

- ① 高等学校を卒業した者又は平成30年3月31日までに卒業見込みの者
- ② 中等教育学校を卒業した者又は平成30年3月31日までに卒業見込みの者
- ③ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）又は平成30年3月31日までに修了見込みの者
- ④ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者若しくは平成30年3月31日までに修了見込みの者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- ⑤ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者又は平成30年3月31日までに修了見込みの者
- ⑥ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は平成30年3月31日までに修了見込みの者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者
- ⑧ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）又は合格見込みの者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの
- ⑨ 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第2項の規定により本学以外の大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- ⑩ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの

※上記⑨又は⑩によって本学への出願資格を得ようとする者は、本学の入学資格審査を受け認定を得る必要があります。申請書の提出期間は、次のとおりです（期間内必着）。

・本学に入学を希望し、大学入試センター試験に出願しようとする者の申請期間は終了しました。

・他大学の入学資格認定を受け大学入試センター試験受験後に本学に入学を希望する者

平成30年1月17日（水）まで

なお、これにより認定が得られた場合の入学資格は、本学のみ有効なものです。

詳細については、本学ホームページ (<http://www.gunma-u.ac.jp/>) の入試案内を参照するか、本学学生受入課〔電話：027-220-7150〕へ問合せてください。

○医学部医学科地域医療枠の対象者要件

医学部医学科地域医療枠の出願資格は、前述の出願資格のほか、「群馬県緊急医師確保学資金貸与制度について(一般入試)」（47ページ）に示す対象者要件に該当する者となります。

○大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

(1) 平成30年度大学入試センター試験において受験を要する教科・科目は、次のとおりです。なお、教科・科目名に使用している次の表示は、それぞれカッコ内の語を表しています。

国（国語）、地歴（地理歴史）、世（世界史）、日（日本史）、現社（現代社会）、倫（倫理）、政経（政治・経済）、倫・政経（倫理、政治・経済）、数（数学）、簿（簿記・会計）、情報（情報関係基礎）、理（理科）、物基（物理基礎）、化基（化学基礎）、生基（生物基礎）、地基（地学基礎）、物（物理）、化（化学）、生（生物）、外（外国語）、英（英語）、独（ドイツ語）、仏（フランス語）、中（中国語）、韓（韓国語）

(2) 「地理歴史」及び「公民」については、同一名称を含む科目（「地理A」と「地理B」、「倫理」と「倫理、政治・経済」等）を組み合わせることはできません。

(3) 理科の「基礎を付した科目」を利用する場合は、任意の2科目を必ず選択解答してください。（「基礎を付した科目」を1科目のみ選択することはできません。）

◎ 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

学部・日程・学科・ 課程・系・専攻名	大学入試センター試験の受験を要する教科・科目			受験を要する 教科・科目数
	教科	科目		
文化・社会系 国 社 英 語 会 語 専 専 攻 攻	国語	国	必須	5教科6科目 又は 5教科7科目 若しくは 6教科6科目 又は 6教科7科目
	地理歴史	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 B	から2	
	公民	現社、倫、政経、倫・政経		
	数学	① 数 I、数 I・数 A ② 数 II、数 II・数 B	から1	
	理科	① ア 物基、化基、生基、地基 ② イ 物、化、生、地学	から2 から1	
	外国語	英、独、仏、中、韓	から1	
	国語	国	必須	
	地理歴史	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 B	から1	
	公民	現社、倫、政経、倫・政経		
	数学	① 数 I、数 I・数 A ② 数 II、数 II・数 B	から1 から1	
	理科	① 物、化、生、地学 ② イ 物、化、生、地学	から1 から1	
	外国語	英、独、仏、中、韓	から1	
自然・情報系 数 学 専 攻 技 術 専 攻	国語	国	必須	5教科6科目
	地理歴史	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 B	から1	
	公民	現社、倫、政経、倫・政経		
	数学	① 数 I、数 I・数 A ② 数 II、数 II・数 B	から1 から1	
	理科	① 物、化、生、地学 ② イ 物、化、生、地学	から1 から1	
	外国語	英、独、仏、中、韓	から1	
	国語	国	必須	
	地理歴史	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 B	から1	
	公民	現社、倫、政経、倫・政経		
	数学	① 数 I、数 I・数 A ② 数 II、数 II・数 B	から1 から1	
	理科	① ア 物基、化基、生基、地基 ② イ 物、化、生、地学	から2 から1	
	外国語	英、独、仏、中、韓	から1	
生活・健康系 理 科 専 攻	国語	国	必須	5教科7科目 又は 5教科8科目
	地理歴史	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 B	から1	
	公民	現社、倫、政経、倫・政経		
	数学	① 数 I、数 I・数 A ② 数 II、数 II・数 B	から1 から1	
	理科	① ア 物基、化基、生基、地基 ② イ 物、化、生、地学	から2 から1	
	外国語	英、独、仏、中、韓	から1	
	国語	国	必須	
	地理歴史	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 B	から1	
	公民	現社、倫、政経、倫・政経		
	数学	① 数 I、数 I・数 A ② 数 II、数 II・数 B	から1 から1	
	理科	① ア 物基、化基、生基、地基 ② イ 物、化、生、地学	から2 から1	
	外国語	英、独、仏、中、韓	から1	
芸術・表現系 音 楽 専 攻 美 術 専 攻	国語	国	必須	5教科5科目 又は 5教科6科目
	地理歴史	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 B	から1	
	公民	現社、倫、政経、倫・政経		
	数学	① 数 I、数 I・数 A ② 数 II、数 II・数 B	から1 から1	
	理科	① ア 物基、化基、生基、地基 ② イ 物、化、生、地学	から2 から1	
	外国語	英、独、仏、中、韓	から1	
	国語	国	必須	
	地理歴史	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 B	から2	
	公民	現社、倫、政経、倫・政経		
	数学	① 数 I、数 I・数 A ② 数 II、数 II・数 B	から1 から1	
	理科	① ア 物基、化基、生基、地基 ② イ 物、化、生、地学	から2 から1	
	外国語	英、独、仏、中、韓	から1	
教育人間科学系 家 政 専 攻 保 健 体 育 専 攻	国語	国	必須	5教科6科目 又は 5教科7科目 若しくは 6教科6科目 又は 6教科7科目
	地理歴史	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 B	から2	
	公民	現社、倫、政経、倫・政経		
	数学	① 数 I、数 I・数 A ② 数 II、数 II・数 B	から1 から1	
	理科	① ア 物基、化基、生基、地基 ② イ 物、化、生、地学	から2 から1	
	外国語	英、独、仏、中、韓	から1	
	国語	国	必須	
	地理歴史	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 B	から2	
	公民	現社、倫、政経、倫・政経		
	数学	① 数 I、数 I・数 A ② 数 II、数 II・数 B	から1 から1	
	理科	① ア 物基、化基、生基、地基 ② イ 物、化、生、地学	から2 から1	
	外国語	英、独、仏、中、韓	から1	
教育人間科学系 教 育 専 攻 教 育 心 理 専 攻 障 害 児 教 育 専 攻	国語	国	必須	5教科6科目 又は 5教科7科目 若しくは 6教科6科目 又は 6教科7科目
	地理歴史	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 B	から2	
	公民	現社、倫、政経、倫・政経		
	数学	① 数 I、数 I・数 A ② 数 II、数 II・数 B	から1 から1	
	理科	① ア 物基、化基、生基、地基 ② イ 物、化、生、地学	から2 から1	
	外国語	英、独、仏、中、韓	から1	
	国語	国	必須	
	地理歴史	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 B	から2	
	公民	現社、倫、政経、倫・政経		
	数学	① 数 I、数 I・数 A ② 数 II、数 II・数 B	から1 から1	
	理科	① ア 物基、化基、生基、地基 ② イ 物、化、生、地学	から2 から1	
	外国語	英、独、仏、中、韓	から1	

(注) 注意事項が14ページに記載してありますので、参照してください。

◎ 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

学部・日程・学科・課程・系・専攻名		大学入試センター試験の受験を要する教科・科目			受験を要する教科・科目数		
		教科	科目				
教育学部	文化・社会系	国語専攻 社会言語専攻	国語	国	必須	5教科6科目 又は 5教科7科目 若しくは 6教科6科目 又は 6教科7科目	
			地理歴史	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	から2		
			公民	現社、倫、政経、倫・政経	から1		
			数学	① 数Ⅰ、数Ⅰ・数A ② 数Ⅱ、数Ⅱ・数B	から2		
	自然・情報系	数理工専攻 理技専攻	国語	地理歴史	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	から1	5教科6科目
				公民	現社、倫、政経、倫・政経	から1	
				数学	① 数Ⅰ、数Ⅰ・数A ② 数Ⅱ、数Ⅱ・数B	から1	
				理科	① 物、化、生、地学 ② 物、化、生、地学	から1	
	芸術・表現系	音楽専攻 美術専攻	国語	地理歴史	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	必須	5教科5科目 又は 5教科6科目
				公民	現社、倫、政経、倫・政経	から1	
				数学	① 数Ⅰ、数Ⅰ・数A ② 数Ⅱ、数Ⅱ・数B	から1	
				理科	① ア物基、化基、生基、地基 ② イ物、化、生、地学	から2	
生活・健康系	家政専攻 保健体育専攻	国語	地理歴史	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	必須	5教科6科目 又は 5教科7科目 若しくは 6教科6科目 又は 6教科7科目	
			公民	現社、倫、政経、倫・政経	から2		
			数学	① 数Ⅰ、数Ⅰ・数A ② 数Ⅱ、数Ⅱ・数B	から1		
			理科	① ア物基、化基、生基、地基 ② イ物、化、生、地学	から2		
教育人間科学系	教育専攻 教育心理専攻 障害児教育専攻	国語	地理歴史	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	必須	5教科6科目 又は 5教科7科目 若しくは 6教科6科目 又は 6教科7科目	
			公民	現社、倫、政経、倫・政経	から2		
			数学	① 数Ⅰ、数Ⅰ・数A ② 数Ⅱ、数Ⅱ・数B	から1		
			理科	① ア物基、化基、生基、地基 ② イ物、化、生、地学	から2		

1 教育学部

- 「文化・社会系」について
 - 「数学」について、2科目受験している場合は、高得点の科目の成績を用います。
 - 「理科」について、アとイを満たす場合は、高得点の成績を用います。また、イの中から2科目受験している場合、第1解答科目の成績を用います。
- 「自然・情報系」について
 - 「地理歴史」及び「公民」について、計2科目受験している場合は、第1解答科目の成績を用います。
 - 数学専攻及び技術専攻における前期・後期、理科専攻における後期の「理科」について、2科目受験している場合は、第1解答科目の成績を用います。
 - 理科専攻における前期の「理科」について、アの場合は、同一名称を含む科目（「物理」と「物理基礎」等）を組み合わせて選択することはできません。
- 「芸術・表現系」について
 - 「地理歴史」及び「公民」について、計2科目受験している場合は、第1解答科目の成績を用います。
 - 「数学」について、2科目受験している場合は、高得点の科目の成績を用います。
 - 「理科」について、アとイを満たす場合は、高得点の成績を用います。また、イの中から2科目受験している場合は、第1解答科目の成績を用います。
- 「生活・健康系」について
 - 「数学」について、2科目受験している場合は、高得点の科目の成績を用います。
 - 「理科」について、アとイを満たす場合は、高得点の成績を用います。また、イの中から2科目受験している場合は、第1解答科目の成績を用います。
- 「教育人間科学系」について
 - 「数学」について、2科目受験している場合は、高得点の科目の成績を用います。
 - 「理科」について、アとイを満たす場合は、高得点の成績を用います。また、イの中から2科目受験している場合は、第1解答科目の成績を用います。

学部・日程・学科・課程・系・専攻名		大学入試センター試験の受験を要する教科・科目			受験を要する教科・科目数			
		教科	科目					
教育学部	前期日程 後期日程	社会情報学系	a	国語	国	必須	5教科7科目 又は 5教科8科目	
				地理歴史	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	から2		
				数学	① 数Ⅰ、数Ⅰ・数A ② 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報	から1		
				理科	① ア物基、化基、生基、地基 ② イ物、化、生、地学	から2		
	前期日程 後期日程	b	c	c	国語	国	必須	6教科7科目 又は 6教科8科目
					地理歴史	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	から1	
					公民	現社、倫、政経、倫・政経	から1	
					数学	① 数Ⅰ、数Ⅰ・数A ② 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報	から1	
	前期日程 後期日程	d	e	e	国語	国	必須	5教科7科目 又は 5教科8科目
					地理歴史	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	から1	
					公民	現社、倫、政経、倫・政経	から1	
					数学	① 数Ⅰ、数Ⅰ・数A ② 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報	から1	
前期日程 後期日程	f	g	g	理科	① ウ物基、化基、生基、地基 ② 物、化、生、地学	から2	5教科8科目	
				理科	① 物、化、生、地学 ② 工物、化、生、地学	から1		
				理科	① 物、化、生、地学 ② 工物、化、生、地学	から2		
				理科	① 物、化、生、地学 ② 工物、化、生、地学	から2		
前期日程 後期日程	h	i	i	国語	国	必須	5教科7科目	
				地理歴史	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	から1		
				公民	現社、倫、政経、倫・政経	必須		
				数学	① 数Ⅰ・数A ② 数Ⅱ・数B	必須		
前期日程 後期日程	j	k	k	理科	① 物、化、生 ② 物、化、生	から2	5教科7科目	
				理科	① 物、化、生 ② 物、化、生	から2		
				理科	① 物、化、生 ② 物、化、生	から2		
				理科	① 物、化、生 ② 物、化、生	から2		
前期日程 後期日程	l	m	m	国語	国	必須	5教科7科目	
				地理歴史	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	から1		
				公民	現社、倫、政経、倫・政経	必須		
				数学	① 数Ⅰ・数A ② 数Ⅱ・数B、簿、情報	から1		
前期日程 後期日程	n	o	o	理科	① 物、化、生 ② 物、化、生	から2	5教科7科目	
				理科	① 物、化、生 ② 物、化、生	から2		
				理科	① 物、化、生 ② 物、化、生	から2		
				理科	① 物、化、生 ② 物、化、生	から2		

2 社会情報学系

- 利用教科・科目は、前期・後期ともa～cのいずれかの型になります。
- 理科については、cの場合、同一名称を付した科目（「物理」と「物理基礎」等）を選択することができます。
- 「地理歴史」、「公民」及び「理科」について、a～cの型を超えて受験した場合は、以下の取扱いとします。
 - 「地理歴史」、「公民」から2科目、「理科」の「物基、化基、生基、地基」及び「物、化、生、地学」を受験している場合は、「地理歴史及び公民の第1解答科目」の成績及び「地理歴史及び公民の第2解答科目」、「物基、化基、生基、地基」、「物、化、生、地学」のうち「高得点の2科目（ただし、「物基、化基、生基、地基」は2科目の合計点を1科目として取扱う）」の成績を用います。
 - 「地理歴史」、「公民」から2科目及び「理科」の「物、化、生、地学」から2科目を受験している場合は、「地理歴史及び公民の第1解答科目」の成績、「理科の第1解答科目」の成績及び「他の2科目のうち高得点の科目」の成績を用います。

3 医学部

「地理歴史」及び「公民」について、計2科目受験している場合は、第1解答科目の成績を用います。

4 理工学部

「地理歴史」及び「公民」について、計2科目受験している場合は、第1解答科目の成績を用います。

【前期日程】

大学入試センター試験の受験科目を必ず確認してください（提出不要）

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表

【確認方法】

下記の表は、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を受験したことを確認するための表です。必ず志願者本人が、志望する学部・学科等の確認欄に1つずつ○をつけて、○の数が各教科の指定科目数になるかを確認してください。
各学部・学科等が指定する教科・科目が不足した場合は、出願することはできません。

※ 13～15ページの「大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等」を参照してください。

教育学部 文化・社会系（国語専攻、社会専攻、英語専攻）

教科	国語	地理歴史		公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	2		1		1		-		-		理科①から2又は理科②から1		1												1		
確認欄																												

教育学部 自然・情報系（数学専攻、技術専攻）

教科	国語	地理歴史		公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1		1		1		1		-		-		-		-		-		1				1				
確認欄																												

教育学部 自然・情報系（理科専攻）

教科	国語	地理歴史		公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1		1		1		1		-		-		-		-		-		1				1				
確認欄																												

教育学部 芸術・表現系（音楽専攻、美術専攻）

教科	国語	地理歴史		公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1		1		1		-		-		-		-		-		-		1				1				
確認欄																												

教育学部 生活・健康系（家政専攻、保健体育専攻）

教科	国語	地理歴史		公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	2		1		1		-		-		-		-		-		-		理科①から2又は理科②から1				1				
確認欄																												

教育学部 教育人間科学系（教育専攻、教育心理専攻、障害児教育専攻）

教科	国語	地理歴史		公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	2		1		1		-		-		-		-		-		-		理科①から2又は理科②から1				1				
確認欄																												

社会情報学部

教科	国語	地理歴史		公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数 a	1	2		1		1		1		-		-		-		-		-		理科①から2又は理科②から1				1				
指定科目数 b	1	1		1		1		1		-		-		-		-		-		理科①から2又は理科②から1				1				
指定科目数 c	1	1		1		1		1		-		-		-		-		-		理科①から2及び理科②から1、又は理科②から2				1				
確認欄																												

医学部 医学科

教科	国語	地理歴史		公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1		1		1		-		-		-		-		-		-		2		-		1		-		
確認欄																												

医学部 保健学科

教科	国語	地理歴史				公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1					1						1											2				1			
確認欄																														

理工学部

教科	国語	地理歴史				公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1					1						1											2				1			
確認欄																														

[後期日程]

大学入試センター試験の受験科目を必ず確認してください (提出不要)

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表

【確認方法】

下記の表は、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を受験したことを確認するための表です。必ず志願者本人が、志望する学部・学科等の確認欄に1つずつ○をつけて、○の数が各教科の指定科目数になるかを確認してください。
各学部：学科等が指定する教科・科目が不足した場合は、出願することはできません。
※13～15ページの「大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等」を参照してください。

教育学部 文化・社会系 (国語専攻、社会専攻、英語専攻)

教科	国語	地理歴史				公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1					2						1											1				1			
確認欄																														

教育学部 自然・情報系 (数学専攻、理科専攻、技術専攻)

教科	国語	地理歴史				公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1					1						1	1										1				1			
確認欄																														

教育学部 芸術・表現系 (音楽専攻、美術専攻)

教科	国語	地理歴史				公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1					1						1											1				1			
確認欄																														

教育学部 生活・健康系 (家政専攻、保健体育専攻)

教科	国語	地理歴史				公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語														
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1					2						1											1				1			
確認欄																														

教育学部 教育人間科学系（教育専攻、教育心理専攻、障害児教育専攻）

教科	国語	地理歴史				公民		数学①	数学②	理科①			理科②			外国語												
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	2										1	—	—	—	理科①から2又は理科②から1								1				
確認欄																												

社会情報学部

教科	国語	地理歴史				公民		数学①	数学②	理科①			理科②			外国語												
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数 a	1	2				—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	理科①から2又は理科②から1								1				
指定科目数 b	1	1										1	—	—	—	理科①から2又は理科②から1								1				
指定科目数 c	1	1										1	—	—	—	理科①から2及び理科②から1、又は理科②から2								1				
確認欄																												

医学部 保健学科

教科	国語	地理歴史				公民		数学①	数学②	理科①			理科②			外国語												
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1										—	1	—	—	—	—	—	—	—	2	—			1			
確認欄																												

理工学部

教科	国語	地理歴史				公民		数学①	数学②	理科①			理科②			外国語												
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1										—	1	—	—	—	—	—	—	—	2	—			1	—	—	—
確認欄																												

5. 出願手続

(1) 出願方法

インターネット出願

- ①インターネットにより、志望情報等を入力する。
 ②入学検定料を支払う。
 ③調査書等の提出が必要な出願書類等を郵送する。
- ①、②、③のすべての手続きを行います。

< 注意 >

インターネット出願は、インターネットでの入力及び入学検定料の支払を行っただけでは出願手続き完了にはなりません。以下の期間内に必要な出願書類等が到着するように、簡易書留速達で郵送する必要があります。前期日程と後期日程の両方に出願する場合は、それぞれインターネットでの入力が必要となります。

※障害がある等でインターネット出願の利用が難しい方は、下記へ相談してください。

群馬大学学務部学生受入課入学試験係 電話 027 - 220 - 7150

(2) 出願期間

事項	期間
インターネット入力及び入学検定料の支払	平成30年1月22日（月）8時30分から 1月31日（水）17時まで
提出が必要な出願書類等の郵送	平成30年1月22日（月）から 1月31日（水）まで（必着）

注意事項

出願書類等（出願確認票・写真票、成績請求票、写真、調査書等）の提出は、必ず簡易書留速達で郵送してください。簡易書留速達以外で郵送した場合、事故があっても本学ではその責任は負いません。

出願書類等は、平成30年1月31日（水）までに必ず届くよう、郵送期間を十分考慮のうえ、発送してください。

ただし、出願期間後（2月1日（木）以降）に到着した場合でも、1月29日（月）までの（1月29日（月）を含む）発信局消印がある「簡易書留速達」に限り受理します。

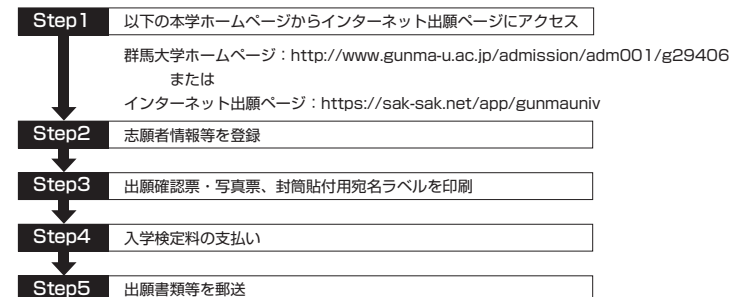
なお、特別な事情がある場合については、平成30年1月22日（月）17時15分までに下記へ連絡してください。

群馬大学学務部学生受入課入学試験係 電話 027 - 220 - 7150

(3) インターネット入力の方法

必要な情報について、インターネットを利用して入力します。

インターネット出願のページへは、群馬大学ホームページからアクセスできます。



(4) 入学検定料支払の方法

入学検定料：17,000円 [教育学部、社会情報学部、医学部、理工学部(総合理工学科(フレックス制を除く))]
10,000円 [理工学部 総合理工学科(フレックス制)]

インターネット出願ページで選択・入力した支払方法により、支払手続を行ってください。
出願登録時から48時間以内に支払う必要があります。

なお、前期日程と後期日程の両方に出席する場合は、それぞれに入学検定料を納付してください。
入学検定料の他に別途必要な事務手数料は、志願者負担となります。

◆現金でのお支払い方法 - コンビニエンスストア -

ローソン



Loppi△

1. Loppiのトップ画面左の「各種番号をお持ちの方」を押してください。
2. お支払い受付番号(6桁)を入力し、次へボタンを押してください。
3. 電話番号等を案内にしたがって入力してください。
4. お申込み内容の確認画面で内容をご確認いただいた後、確定を押してください。
5. 申込券が出力されますので、30分以内にレジでお支払いください。

ファミリーマート



Famiポート△

1. Famiポートのトップ画面にある「代金支払い」を押してください。
2. 代金支払い一覧の「各種番号をお持ちの方はこちら」を押してください。
3. ご案内画面の「番号入力画面に進む」を押してください。
4. お支払い受付番号を入力し、OKボタンを押してください。
5. 電話番号等を案内にしたがって入力してください。
6. お申込み内容の確認画面で内容をご確認いただいた後、OKボタンを押してください。
7. 申込券が出力されますので、30分以内にレジでお支払いください。

セブン-イレブン



レジ△

1. セブン-イレブン代金収納サービス払込票URLから「インターネットショッピング払込票」を印刷するか、払込票番号を探して、お近くのセブン-イレブンのレジへ。
2. 「インターネットショッピング払込票」を従業員に手渡すか、「インターネット決済」であることを告げ、払込票番号を伝え、お支払いください。

サークルKサンクス



Kステーション△

1. Kステーションのトップ画面左下の「各種支払い」を押してください。
2. 次画面で「6ケタの番号をお持ちの方」ボタンを押してください。
3. 「受付番号(6桁)」を入力し、「次に進む」ボタンを押してください。
4. 電話番号等を案内にしたがって入力してください。
5. 受付票が出力されますので、30分以内にレジでお支払いください。

デイリーヤマザキ・ヤマザキデイリーストア



レジ△

1. オンライン決済番号が表示された画面を印刷するか、オンライン決済番号を控えて、お近くのデイリーヤマザキ・ヤマザキデイリーストアのレジへ。
2. 店員に、印刷した用紙を手渡すか、「オンライン決済」であることを告げてください。
3. レジの画面にオンライン決済番号を入力してください。
4. 内容をご確認いただいた後、確定ボタンを押していただき、代金をお支払いください。

ミニストップ



Loppi△

1. Loppiのトップ画面左の「各種番号をお持ちの方」を押してください。
2. お支払い受付番号(6桁)を入力し、次へボタンを押してください。
3. 電話番号等を案内にしたがって入力してください。
4. お申込み内容の確認画面で内容をご確認いただいた後、確定ボタンを押してください。
5. 申込券が出力されますので、30分以内にレジでお支払いください。

セイコーマート

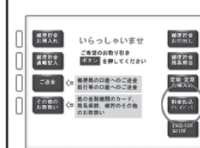


クラブステーション△

1. クラブステーションのトップ画面左下の「インターネット受付」を押してください。
2. お支払い受付番号を入力し、次へ進むボタンを押してください。
3. 電話番号等を案内にしたがって入力してください。
4. お申込み内容の確認画面で内容をご確認いただいた後、印刷ボタンを押してください。
5. 決済サービス払込取扱票・払込票兼受領証・領収書の3枚が出力されますので、レジでお支払いください。

◆現金でのお支払い方法 - 銀行 -

ゆうちょ銀行/郵便局ATMでお支払い



ゆうちょ銀行/郵便局ATM△

1. 料金払込(ペイジー)ボタンを押してください。
2. 次に表示される画面で、手入力ボタンを押してください。
3. 収納機関番号画面で「収納機関番号」を入力してください。
4. お客様番号画面でインターネット出願登録時の「電話番号」を入力してください。
5. 確認番号画面で「確認番号」を入力してください。
6. 確認画面で入力した内容をご確認いただいた後、確認ボタンを押してください。
7. 振込内容をご確認いただいた後、確認ボタンを押してください。
8. お支払い方法(現金または通帳・カード)を選択してください。
9. お支払い方法別の案内にしたがって、支払いを行ってください。
10. 明細表をお取りください。

各金融機関のATMでお支払い



金融機関のATM△ ※みずほ銀行の場合

1. 税金・料金払込ボタンを押してください。
2. 収納機関番号画面で「収納機関番号」を入力してください。
3. お客様番号画面でインターネット出願登録時の「電話番号」を入力してください。
4. 確認番号画面で「確認番号」を入力してください。
5. 確認画面で入力した内容をご確認いただいた後、確認ボタンを押してください。
6. お支払い方法(現金またはキャッシュカード)を選択してください。
7. お支払い方法別の案内にしたがって、支払いを行ってください。
8. 明細表をお取りください。

※例、みずほ銀行のATM

(5) 入学検定料の返還について

既納の検定料は原則として返還しません。

ただし、検定料を振り込み後、本学に申しなかった場合又は書類の不備等により受理されなかった場合、あるいは重複振り込み等所定の金額より多く振り込んだ場合は、下記手続により返還します。

また、医学部医学部の第1段階選抜不合格者、大学入試センター試験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した場合については、「国立大学法人群馬大学授業料その他の費用に関する規程」により13,000円（理工学部総合理工学科（フレックス制）は、7,800円）を返還します。

返還に当たっては便せん等を用い、次のア～オを明記した検定料返還申出書を作成して群馬大学財務部経理課へ郵送してください。

群馬大学〇〇日程試験検定料返還申出書
ア 返還申出の理由
イ 氏名（フリガナ）
ウ 郵便番号、現住所
エ 連絡電話番号
オ 志望学部

返還申出書送付先

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

群馬大学財務部経理課入係 電話 027-220-7062

返還手続を行う際に、「振込金受取書」又は「入学検定料・選考料 取扱明細書」が必要となります。

返還される金額は、振込手数料を差し引いた金額となります。

(6) 入学検定料の免除について

東日本大震災及び風水害等の災害に罹災した志願者については、特別措置として検定料の全額を免除します。

検定料の免除の対象者

1. 東日本大震災に係る特別措置

(1) 東日本大震災における災害救助法が適用されている地域で罹災した志願者で、以下のいずれかに該当する者

- ① 学資負担者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊又は流失した者
- ② 学資負担者が死亡又は行方不明の者

(2) 学資負担者の居住地が、福島第一原子力発電所で発生した事故により、警戒区域、計画的避難区域、帰還困難区域、居住制限区域及び避難指示解除準備区域に指定された者

2. 風水害等の災害に係る特別措置

(1) 出願期限の日から前1年以内に発生した風水害等の災害において、災害救助法が適用されている地域で罹災した志願者で、以下のいずれかに該当する者

- ① 学資負担者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊又は流失した者
- ② 学資負担者が死亡又は行方不明の者

(2) 本学が指定する風水害等の災害における「災害救助法適用地域」については、本学ホームページ（入試案内>関連情報）を御確認ください。

上記に該当される方は、当該「検定料免除申請書」を本学ホームページ（入試案内>関連情報）からダウンロードし、関係書類を添え出願書類に同封して申請してください。書類の提出に関する問合せ等は、平日8時30分から17時15分の間に学務部学生受入課（電話027-220-7149）まで連絡してください。URL: (http://www.gunma-u.ac.jp/)

(7) 提出が必要な出願書類等

前期日程、後期日程の両方に出願する者は、それぞれの日程ごとに提出封筒を準備して、次に掲げる書類等を提出してください。

なお、出願書類等に不足等がある場合、出願を受け付けることができませんので、注意してください。

出願書類等	対象者	摘要
①出願確認票・写真票		<p>インターネット出願ページの出願登録完了画面から印刷してください。なお、以下の点に留意して提出ください。</p> <p>【成績請求票】 所定の欄の枠内に大学入試センターから交付を受けた有効な平成30センター試験成績請求票（前期日程に出願する場合は「<u>前期</u>国公立前期日程用」、後期日程に出願する場合は「<u>後期</u>国公立後期日程用」）を貼り付けてください。</p> <p>【写真】 上半身脱帽正面向きで出願前3か月以内に単身で撮影した写真1枚（縦4cm×3cm）を写真貼付欄に貼り付けてください。</p>
②調査書	全員	<p>次の①～⑪のいずれかを提出してください。なお、下記で「コピー可」としたものについては、入学手続の際に原本を郵送又は持参してもらいます。郵送又は持参された原本は返却します。</p> <p>① 出身学校長が作成し、厳封したものを提出してください。</p> <p>② 高等学校卒業程度認定試験（廃止前の大学入学資格規定（昭和26年文科省令第13号）による大学資格検定含む。）合格者は、調査書に代えて「合格証明書」及び「合格成績証明書」を提出してください。</p> <p>③ 外国において学校教育における12年の課程を修了（見込み）した者は、調査書に代えて修了（見込み）証明書（Diploma等）及び成績証明書を提出してください。</p> <p>④ 国際バカロレア事務局（International Baccalaureate Office）が授与する国際バカロレア資格を取得した者は、調査書に代えて国際バカロレア資格証書（International Baccalaureate Diploma、コピー可）及び成績証明書を提出してください。</p> <p>⑤ ドイツ連邦共和国の大学入学資格として認められているアビトゥア資格（ライフェを含む。）を取得した者は、調査書に代えて成績の記載されている一般の大学入学資格証明書（Zeugnis der allgemeinen Hochschulreife、コピー可）を提出してください。</p> <p>⑥ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を取得した者は、調査書に代えてバカロレア資格証書（Diplôme du Baccalauréat de l'Enseignement du Second Degré、コピー可）及び成績証明書、又はバカロレア資格試験成績証明書（Relevé des Notes）を提出してください。</p> <p>⑦ グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格を取得した者は、調査書に代えて成績証明書（コピー可）を提出してください。〔1科目以上合格（評価E以上）していること〕</p> <p>⑧ 文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科を修了（見込み）した者は、調査書に代えて成績証明書を提出してください。</p> <p>⑨ 出身学校の事情（廃校及び被災等を含む。）により、出身学校長の調査書が得られない場合は、卒業証明書、成績通知表（成績通信用簿）及びその他入学志願者が提出できる書類を、調査書に代えて提出してください。</p> <p>⑩ 本人が被災等により⑨の書類も整えられない場合は、出身学校を所管する教育委員会、知事又は出身学校長が作成したこの内容を証明できる書類を提出してください。</p> <p>⑪ ①から⑩に該当しない者については、本学学生受入課入学試験係〔電話 027-220-7150〕へ提出書類を確認の上、提出してください。</p> <p>ただし、11ページの出願資格⑨、⑩によって、本学の入学資格審査を受け認定を受けた者については、既に関係書類を提出済みのため提出を要しません。</p>

③実技試験に関する届出用紙	該 当 者 の み	教育学部音楽専攻志願者又は保健体育専攻志願者は、所定の届出用紙を提出してください。(37、38ページ参照)
④志願理由書		医学部医学科「地域医療枠」で出願する場合は、志願者本人が自筆した「様式 前3 志願理由書」を提出してください。
⑤「群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について(一般入試)」に示す書類		医学部医学科「地域医療枠」で出願する志願者のうち、「群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について(一般入試)」(47～49ページ)の「1 対象者要件」の(4)及び(5)に該当する者は、同頁「2 提出書類」に示す書類を提出してください。
⑥高等学校卒業後の学歴及び職歴		医学部医学科志願者のうち、平成29年3月以前の高等学校卒業者は、「様式 前4 高等学校卒業後の学歴及び職歴」を提出してください。

注意事項

- 1 出願書類の※印欄は、記入しないでください。
- 2 出願書類に不備がある場合は受理しないことがあります。
- 3 受理された出願書類は、いかなる理由があっても返還しません。また、いかなる理由があっても変更は認めません。
- 4 出願書類に虚偽の記載をしたことが判明した場合は、入学許可を取り消すことがあります。

(8) 提出が必要な出願書類等の提出先及び提出方法

①提出封筒の準備

志願する日程(「前期日程」、「後期日程」)の封筒及び必要書類を用意し、提出してください。

「前期日程」、「後期日程」の両方に届出する場合は、それぞれ用意してください。

ア. 必ず、角形2号封筒(横24cm×縦33.2cmでA4サイズの書類を折らずに入れることができる封筒)を使用してください。

長形3号定型封筒(横12cm×縦23.5cm)は使用できません。



角形2号封筒

(A4の書類を折らずにいれることができる封筒)



長形3号定型封筒

1. 出願登録完了画面から「封筒貼付用宛名ラベル」を印刷し、アの封筒の表(宛名)面に貼付してください。

②提出が必要な出願書類等の封入

24ページの5。(7)提出が必要な出願書類等を確認し、必要な書類等を封入してください。

③簡易書留速達郵便で送付

21ページの5。(2)出願期間の「提出が必要な出願書類等」の郵送期間内に必ず到着するよう、簡易書留速達郵便で郵送してください。

(9) 問合せ先

受験に関する質問等は、下記へ問合せください。

群馬大学学務部学生受入課入学試験係 電話 027-220-7150

大学提出用

受験日: 2017年01月08日

出願受付番号: 9999-999999

※印刷は、記入しないでください。

発行番号

※ 受験番号

群馬大学
工学部化学・生物化学科

〒371-0000
群馬県100-66
グンマ・タロウ
センター

〒000-0000
000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000

〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000

〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000

〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000

2018年度 群馬大学 出願確認票

※印刷は、記入しないでください。

発行番号

※ 受験番号

群馬大学
工学部化学・生物化学科

〒371-0000
群馬県100-66
グンマ・タロウ
センター

〒000-0000
000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000

〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000

速達

3 7 1 - 8 7 9 9

日本郵便株式会社 前橋中央郵便局留

群馬大学

一 般 入 試 出 願 書 類 受 付 係 御 中

引 受 番 号

工学部医学科
群馬大学

〒371-0000
群馬県100-66
グンマ・タロウ
センター

〒000-0000
000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000

〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000

〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000

2018年度 群馬大学 出願確認票

※印刷は、記入しないでください。

発行番号

※ 受験番号

群馬大学
工学部化学・生物化学科

〒371-0000
群馬県100-66
グンマ・タロウ
センター

〒000-0000
000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000

〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000
〒000-0000-0000

I 共通事項

志願先 群馬大学			
志願先 (自宅電話)	000-0000-0000	〒371-0000 群馬県100-66 グンマ・タロウ センター	
差出人	群馬大学 工学部化学・生物化学科 群馬県100-66 グンマ・タロウ センター	群馬大学 工学部化学・生物化学科 群馬県100-66 グンマ・タロウ センター	群馬大学 工学部化学・生物化学科 群馬県100-66 グンマ・タロウ センター

I 共通事項

6. 受験票について

インターネット出願により登録した内容と、本学に届いた出願書類の内容が確認され、出願が受理されると、2月11日(日)(医学部医学科は2段階選抜を実施した場合2月14日(水))23:59までにその旨をメールでお知らせすると同時に受験票PDFの印刷が可能になります。再度、インターネット出願ページにアクセスし、受験票のPDFを白色のA4用紙で印刷し、**当日必ず持参**してください。**本学からの受験票の送付はありません。**

※受験票PDFを印刷したら、受験者氏名等が出願した内容と相違ないか確認してください。**万一記載に誤りがある場合には、下記までに連絡をしてください。**

群馬大学学務部学生受入課入学試験係 電話 027 - 220 - 7150

7. 障害等のある入学志願者との事前相談について

本学では障害等のある学生への修学支援を行っております。

障害等があって、受験上及び修学上の配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、あらかじめ本学と相談してください。

なお、前期日程教育学部英語専攻の試験では、リスニングテストがあるので留意してください。また、前期日程理工学部の試験場について、配慮内容によっては桐生試験場を指定する場合があります。

(1) 相談の時期

平成29年11月10日(金)までとしますが、なるべく早い時期に相談してください。

ただし、点字又は代筆による解答を希望する者は、平成29年11月10日(金)以前のできるだけ早い時期に相談してください。

(2) 相談の方法

本学所定の相談書(本学ホームページ参照 <http://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001/g2117>)に医師の診断書等必要書類を添付して提出してください。必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談等を行います。

(3) 相談書送付先

〒371-8510 前橋市荒牧町4-2 群馬大学学務部学生受入課入学試験係 電話 027 - 220 - 7150

8. 出願上の注意事項

- 国公立大学の前期日程試験に合格し、平成30年3月15日(木)までに入学手続を行った者は、国公立大学の後期日程試験を受験してもその合格者となりません。
- 国公立大学・学部の推薦入試及びアドミッション・オフィス(AO)入試の合格者は、当該大学・学部の定める入学辞退手続により入学の辞退を許可された場合を除いて、他の国公立大学の一般入試を受験しても、その大学・学部の合格者とはなりません。
- 大学入試センター試験受験票・写真票・成績請求票の再発行を受けた場合には、当初発行の受験票・写真票・成績請求票は無効となりますので使用しないでください。必ず、再発行されたものを使用してください。

9. 個別学力検査等試験日

学部	日程	前期日程	後期日程
教育学部		平成30年2月25日(日)	平成30年3月12日(月)
社会情報学部		平成30年2月25日(日)	平成30年3月12日(月)
医学部		平成30年2月25日(日)、26日(月)	
保健学科		平成30年2月25日(日)	平成30年3月12日(月)
理工学部		平成30年2月25日(日)	平成30年3月12日(月)

10. 合格者発表

(1) 期日等

学部	日程	前期日程	後期日程
教育学部		平成30年3月7日(水)	平成30年3月20日(火)
社会情報学部			
医学部			
理工学部			

※医学部医学科における第1段階選抜の発表方法は、51ページの「2. 選抜方法」の「(3)2段階選抜について(医学部医学科のみ)」を参照してください。

(2) 合格者本人には郵便(発表当日の発送)で通知します。

併せて、合格者の受験番号を本学のホームページ(入試案内)に同日の10時以降から入学手続日まで掲載します。

大学構内での掲示等はいりません。

群馬大学ホームページ：<http://www.gunma-u.ac.jp/>

なお、合否についての電話による問合せには、応じません。

(3) 教育学部では、合格者発表後、入学辞退により各専攻に欠員が生じた場合は、志望上位の専攻に繰り上げることがあります。該当者には、3月28日(水)以降文書等により通知します。

11. 追加合格

平成30年3月27日(火)までに、入学手続完了者が募集人員に満たない場合は、追加合格により欠員を補充します。

追加合格該当者には、平成30年3月28日(水)から3月31日(土)までの間に、当該学部から電話により入学願書に記載の受信場所へ通知します。不合格となった場合でも、自宅待機するなど連絡の取れる状態にしてください。連絡が取れない場合は、追加合格者の資格を失うことがあります。

追加合格者の入学手続は、「13. 入学手続」の「(1)入学手続に必要なもの」の①～④及び学生証用写真(タテ5cm×ヨコ4cm)1枚を学務部教務課へ持参し行います。入学手続日は、学部の担当者が通知します。不明な点は、該当する学部の担当係へ問合せってください。問合せ先は裏表紙の「入学試験に関する問合せ先」を参照してください。

なお、既に他の国公立大学へ入学手続を完了した者は、これを取り消して本学へ入学手続を行うことはできません。

12. 欠員補充第2次募集

追加合格により欠員を補充しても、入学手続完了者が入学定員に満たない場合、欠員補充第2次募集を行います。

平成30年4月1日以降に欠員補充第2次募集を行う場合には、本学のホームページ(入試案内) (<http://www.gunma-u.ac.jp/>)に掲載します。

13. 入学手続

○ 合格者は、「合格通知書」とともに同封する「**入学手続案内**」をよく読んで、下記の「(1)入学手続に必要なもの」を取りそろえ、「(3)入学手続期間」に、「(4)入学手続場所等」へ「郵送」又は「持参」してください。

○ 入学手続を完了した者は、これを取り消して他の国公立大学に入学手続を行うことはできません。

○ 他の国公立大学に入学手続を完了した者は、本学に入学手続をすることはできません。

(1) 入学手続に必要なもの

①入学科 282,000円 [教育学部、社会情報学部、医学部、理工学部(総合理工学科(フレックス制)を除く)]

141,000円 [理工学部総合理工学科(フレックス制)]

②ア. 入学時に入学科の改定が行われた場合は、改定金額を適用します。

イ. 入学科の納入方法等は、別途連絡します。

ウ. 納入した入学科は、いかなる理由があっても返還しません。

- ②大学入試センター試験受験票
③本学の受験票
④入学手続案内で指示するもの

(2) 入学後に必要な納付金

- ①授業料 前期分 267,900円 年額 535,800円 [教育学部、社会情報学部、医学部、理工学部（総合理工学科（フレックス制）を除く）]
前期分 133,950円 年額 267,900円 [理工学部総合理工学科（フレックス制）]
②ア. 入学時および在学中改定が行われた場合は、改定金額を適用します。
イ. 授業料の納入方法等は、別途連絡します。
ウ. 授業料の納入については、希望により入学料の納入の際に、前期分又は前期分・後期分を合わせて納入することができます。
エ. 授業料を納入した入学手続完了者が、平成30年3月31日（土）までに入学を辞退した場合は、納入した者の申し出により、所定の手続の上、納入した授業料相当額を返還します。
②入学料、授業料の他に、各学部等で次の諸経費があります。（納入日等は後日指示されます。なお、金額は予定であり、入学時及び在学中に改定が行われる場合があります。）

教育学部…………… 45,660円 [内訳：教育学部同窓会学部後援会費35,000円／同窓会入会金2,000円／学生教育研究災害傷害保険料3,300円／学研災付帯賠償責任保険料1,360円／荒牧クラブ・サークル協議会費4,000円]
※その他テキスト代として、年間25,000円程度必要になります。

社会情報学部…………… 48,660円 [内訳：後援会費20,000円／同窓会費20,000円／学生教育研究災害傷害保険料3,300円／学研災付帯賠償責任保険料1,360円／荒牧クラブ・サークル協議会費4,000円]
※その他テキスト代として、年間20,000円程度必要になります。

医学部医学科……………303,300円 [内訳：後援会費100,000円（共用試験等受験料を含む）／刀城クラブ・同窓会終身会費170,000円／学生教育研究災害傷害保険料4,800円／学研災付帯賠償責任保険料3,000円／医療費補助費12,000円／荒牧クラブ・サークル協議会費4,000円／学友会費9,500円]
※その他テキスト代として、年間150,000円程度必要になります。

医学部保健学科…………… 93,370円 [内訳：後援会費40,000円／同窓会終身会費40,000円／学生教育研究災害傷害保険料3,370円／学研災付帯賠償責任保険料2,000円／荒牧クラブ・サークル協議会費4,000円／学友会費4,000円]
※その他テキスト代として、年間70,000円程度必要になります。

- ※ 医学部学生は患者さん及び本人の感染防止のために、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎・結核等の予防接種・感染症検査を受ける必要があります。なお、検査・ワクチン接種にかかる費用は自費となります。

理工学部（総合理工学科（フレックス制）を除く）…………… 68,560円 [内訳：後援会及び工業会費50,000円／学生教育研究災害傷害保険料3,300円／学研災付帯賠償責任保険料1,360円／荒牧クラブ・サークル協議会費4,000円／学友会費9,900円]
※その他テキスト代として、年間44,000円程度必要になります。

理工学部総合理工学科（フレックス制）…………… 66,660円 [内訳：後援会及び工業会費50,000円／学生教育研究災害傷害保険料1,400円／学研災付帯賠償責任保険料1,360円／荒牧クラブ・サークル協議会費4,000円 / 学友会費9,900円]
※その他テキスト代として、年間44,000円程度必要になります。

(3) 入学手続期間

◎ 前期日程試験の合格者

郵送の場合：平成30年3月15日（木）までに大学へ必着

持参の場合：平成30年3月15日（木）9時から16時まで

② 郵送・持参のいずれの場合も、上記までに入学手続が完了しない場合は、入学辞退者として扱います。

◎ 後期日程試験の合格者

郵送の場合：平成30年3月27日（火）までに大学へ必着

持参の場合：平成30年3月27日（火）9時から16時まで

② 郵送・持参のいずれの場合も、上記までに入学手続が完了しない場合は、入学辞退者として扱います。

(4) 入学手続場所等

◎ 郵送の場合の送付先

〒371-8510 前橋市荒牧町4-2 群馬大学学務部教務課入学手続担当

◎ 持参の場合の手続場所

群馬大学荒牧キャンパス学生センター1階 教養教育 GA 棟①番窓口 前橋市荒牧町4-2

[交通案内は、本要項の41ページの案内図（教育学部・社会情報学部と同じ構内）を参照してください。]

問合せ先 学務部教務課教務企画係 電話：027-220-7128

(5) 入学料免除・徴収猶予及び授業料免除・徴収猶予

- ① 特別な事情により学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の全額若しくは半額を免除する制度があります。また、所定の納期までに入学料又は授業料の納入が困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の徴収を一定期間猶予することがあります。
- ② 東日本震災で罹災し学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料を免除する制度があります。
- ③ 入試結果や学業成績などが特に優秀な学生（卓越した学生）に対して、各学部等からの推薦に基づき、授業料を免除する制度があります。
申請を希望する者は、群馬大学ホームページ（<http://www.gunma-u.ac.jp/>）の「入試案内」を御覧ください。
問合せ先 学務部学生支援課学生生活係 電話：027-220-7141

(6) 奨学金

経済的理由により修学に困難がある、学業・人物ともに優れた学生に対し、修学を援助するために日本学生支援機構等による奨学金の貸与・給付制度があります。

希望する者は、群馬大学ホームページ（<http://www.gunma-u.ac.jp/>）の「入試案内」を御覧ください。

問合せ先 学務部学生支援課学生生活係 電話：027-220-7142

14. 入学志願者の個人情報保護について

群馬大学では、提出された出願データ及び出願書類により取得した志願者の個人情報及び入学試験の実施により取得した受験者の個人情報について、「国立大学法人群馬大学保有個人情報管理規程」等に基づいて取扱い、次の目的以外には利用しません。

○ 入学者選抜に関する業務（統計処理などの付随する業務を含む。）

○ 入学手続完了者にあつては、入学者データとして入学後の就学指導業務、学生支援業務及び授業料徴収業務

なお、本学の上記業務にあたり、一部の業務を個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、外部の事業者へ委託することがあります。

また、国公立大学の一般入試における合格決定業務を円滑に行うため、本学の一般入試志願者の学部、試験区分、合格状況、本学の受験番号及び大学入試センター試験の受験番号に限って、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。

15. 入試過去問題の利用について

- (1) 本学は「入試過去問題活用宣言」に参加しており、本学のアドミッション・ポリシーを実現するために必要と認める範囲で、「入試過去問題活用宣言」参加大学の入試過去問題を使用して出題することがあります。
- (2) 入試過去問題を使用して出題する場合は、一部を改変することもあります。また、必ず使用するとは限りません。
- (3) 入試過去問題を使用して出題した場合は、入試終了後に受験者に分かる形で使用過去問題を公表します。
- (4) 「入試過去問題活用宣言」の詳細及び参加大学の一覧については、次のURLにて公表しております。
<http://www.nyushikakomon.jp/>

〔 参 考 〕

グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラム

群馬大学では、本学の学生が「本国及び他国の文化・歴史・伝統を理解し、外国語によるコミュニケーション能力を持ち、国内外において主体的に活動できる人」となるよう、グローバルフロンティアリーダーの育成に力を入れています。その一環として、グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラムを設置し、教育学部と社会情報学部が連携した「教育・社情グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」及び医学部と理工学部が連携した「理工工グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」の2コースにより、日本語能力・国際理解を含む幅広い教養・外国語コミュニケーション能力の修得を中心とした教育を行うとともに、海外留学の経験を通して広い視野を持つ学生を育てます。

なお、「理工工グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」は、文部科学省の委託事業「理数学生応援プロジェクト」として平成24年まで実施していた「工学系フロンティアリーダーコース（FLC）」を発展させたものとなります。

- (1) 教育学部
学校教育の担い手として、国際的な視点から日本の教育を捉え、広い視野を持って活躍する人材の養成を目的としています。各学年8名程度を選抜します。
- (2) 社会情報学部
社会情報学部の学際性を生かし、世界に学び、それを地域に展開する能力だけでなく、地域の中に学び、それをグローバルに展開する能力を持つ人材の養成を目的とした「グローバル教育」を行います。各学年10名程度を選抜します。
- (3) 医学部医学科
医師、医学研究者又は医療行政担当者として、国際的視野を持ち、広く国際社会に貢献し得る人材の養成を目的としています。各学年4名程度を選抜します。
- (4) 医学部保健学科
保健医療の担い手として、グローバル化した保健医療の諸課題に対応できる国際的視野を持つ人材の養成を目的としています。各学年4名程度を選抜します。
- (5) 理工学部
理工学分野において、新しい領域を開拓する創造的プロジェクトリーダーとして、諸外国の技術者・研究者と専門分野に関して意思疎通を図りながら、協力して活躍できる能力を身に付けた人材の養成を目的としています。各学年16名程度を選抜します。

Ⅱ 教育学部

1. 志望方法

志望方法欄に示した方法で志望してください。

課程	日程	系	専攻	志望方法	
学校教育 教員養成課程	前期 日程	文化・社会系	国語専攻	左記の3専攻を自由に組み合わせて第1、第2志望とすることができます。	
			社会専攻		
			英語専攻		
		自然・情報系	数学専攻	左記の3専攻のうち第1志望のみとします。	
			理科専攻		
			技術専攻		
		芸術表現系	音楽専攻	左記の2専攻のうち第1志望のみとします。	
			美術専攻		
			家政専攻		
		生活健康系	保健体育専攻	左記の2専攻を自由に組み合わせて第1、第2志望とすることができます。	
			教育専攻		
			教育心理専攻		
	障害児教育専攻				
	文化・社会系		国語専攻		左記の3専攻のうち第1志望のみとします。
			社会専攻		
		英語専攻			
	後期 日程	自然・情報系	数学専攻	左記の3専攻を自由に組み合わせて第1、第2、第3志望とすることができます。	
			理科専攻		
			技術専攻		
		芸術表現系	音楽専攻	左記の2専攻のうち第1志望のみとします。	
			美術専攻		
			家政専攻		
		生活健康系	保健体育専攻	左記の2専攻のうち第1志望のみとします。	
			教育専攻		
教育心理専攻					
障害児教育専攻					
教育人間科学系			教育心理専攻		左記の3専攻を自由に組み合わせて第1、第2、第3志望とすることができます。
			障害児教育専攻		
	障害児教育専攻				

2. 選抜方法

課程・系 専攻名	選抜方法等	大学入試センター試験	個別学力検査等						
			学力試験	系共通問題	実技試験	面接	小論文	外国語におけるリスニングテスト	
文化・社会系	国語専攻	前期	○	×	○	×	×	○	×
		後期	○	×	×	×	○	×	×
	社会専攻	前期	○	×	○	×	×	○	×
		後期	○	×	×	×	○	×	×
	英語専攻	前期	○	○	○	×	×	×	○
		後期	○	×	×	×	○	×	×
自然・情報系	数学専攻	前期	○	○	×	×	×	×	×
		後期	○	×	○	×	×	×	×
	理科専攻	前期	○	×	×	×	×	○	×
		後期	○	×	○	×	×	×	×
	技術専攻	前期	○	○	×	×	×	×	×
		後期	○	×	○	×	×	×	×
芸術表現系	音楽専攻	前期	○	○	○	○	×	×	×
		後期	○	×	×	○	×	×	×
	美術専攻	前期	○	×	○	○	×	×	×
		後期	○	×	×	○	×	×	×
	家政専攻	前期	○	×	○	×	×	○	×
		後期	○	×	×	×	×	○	×
生活健康系	保健体育専攻	前期	○	×	○	○	×	×	×
		後期	○	○	×	○	×	×	×
	教育専攻	前期	○	×	○	×	×	×	×
		後期	○	×	×	×	○	×	×
	教育心理専攻	前期	○	×	○	×	×	×	×
		後期	○	×	×	×	○	×	×
障害児教育専攻	前期	○	×	○	×	×	×	×	
	後期	○	×	×	×	○	×	×	

- 第1志望の専攻に課せられた試験等を全て受験しなければ、失格となります。
- 第1志望の専攻に課せられた大学入試センター試験、個別学力検査等及び調査書を総合して合否を判定します。
なお、個別学力検査等のいずれかに著しく不良のものがあつた場合は、不合格とします。

(1) 個別学力検査等の教科・科目等

日程	系・専攻	教科・科目名等	試験時間	出題意図	摘要	
前期 日程	文化・社会系	系共通試験(小論文)	1時間	文化・社会に関わる諸問題についての論理的、総合的な思考力と文章表現力を問います。	注1参照	
	国語専攻	小論文	2時間	日本語のしくみや日本語を用いた文化に関する総合的な力を問います。課題の理解力、論理的な思考力、発想の豊かさ、文章表現力などを評価します。	注1参照	
	社会専攻	小論文	2時間	社会的現象に関する問題の趣旨を理解し、正確な知識に基づいて、ユニークかつ的確な着眼点から、論旨明快に論述する能力を問います。	注1参照	
	英語専攻	外国語 英語(コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ。なお、リスニングテストを含む。)	2時間	英語の専門教育を受けるために必要な総合的英語能力を十分有しているかを問います。一定分量の英文を正しく読解できるか、英文を正しく書けるか、英文を正しく聴解できるかを問う出題となります。		
	自然・情報系	数学専攻	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B	2時間	数学的な知識、能力(計算力、数理的思考力)が備わっているか判断します。	
	理科専攻	小論文		1時間30分	理科・科学に関する論述を課し、基本的な知識、理解力、論理的思考力、問題解決能力などを総合的に評価します。	注1参照
	技術専攻	数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B	2時間	数学的な知識、能力(計算力、数理的思考力)が備わっているか判断します。	
	芸術・表現系	系共通試験(小論文)		1時間	・音楽教育に関連する諸問題を中心として、教育に対する理解度や判断力、教育への意欲等に加え、それらを的確に表現できる論理的思考力、構成力等の基本的能力を意図して出題します。 ・美術と関わりのあるテーマを取りあげ、出題します。美術の基本的な知識を参考にしながら、与えられたテーマ(課題)について、自己の考えを自由に記述することを趣旨とします。テーマ(課題)に関する理解度、論理性、論旨の明確さ、文章表現力などの観点から評価します。	注1参照
	音楽専攻	楽典に関する筆記試験		50分	音程、音階、調、和音、リズム、音符等についての基本的な理解力をみます。	注2参照
	音楽専攻	実技試験(音楽・声楽)		約5時間	正しい声のフォームや発音等で、いかに曲の内容を的確かつ豊かに表現できるかをみます。	注3参照
	美術専攻	実技試験(美術・実技)		5時間	形体、量、空間などを描画することにより、美術の基礎的な能力をみます。	注3参照
	後期 日程	生活・健康系	系共通試験(小論文)	1時間	生活や健康に関わる基礎的教養を問います。	注1参照
家政専攻		小論文	2時間	勉学を進める上で必要な能力(論理的構成力、総合的判断力等)をみることを主眼とします。生活科学に関する文献や資料を基に、論述することを課題とします。	注1参照	
保健体育専攻		実技試験	約5時間	基礎的運動能力及びスポーツに関する能力をみます。	注3参照	
教育人間科学系		系共通試験(小論文)	2時間	特定の教科に限らない幅広い理解力・判断力・問題解決能力・表現力等を評価するために、小論文試験を実施します。	注1参照	
文化・社会系		面接	集団面接/15～20分/面接員複数/口頭試問を含む	約4時間	日本語のしくみや日本語を用いた文化に関する諸問題を話題として取り上げ、質問に対する返答内容の確かさや表現の適切などを評価します。	
国語専攻		面接	集団面接/約30分/面接員複数	約4時間	社会問題等に対する関心や判断力を問います。	
社会専攻		面接	集団面接/約20～30分/面接員複数/口頭試問を含む	約4時間	主として英語のコミュニケーション能力を試します。	
英語専攻		面接	集団面接/約20～30分/面接員複数/口頭試問を含む	約4時間	主として英語のコミュニケーション能力を試します。	
自然・情報系		系共通試験(小論文)		1時間30分	科学的・論理的思考能力、教育に関する意欲・関心及び表現能力等を総合的に判断します。	注1参照
数学専攻						
理科専攻						
技術専攻						
芸術・表現系	系共通試験(音楽・声楽)		約4時間	正しい声のフォームや発音等で、いかに曲の内容を的確かつ豊かに表現できるかをみます。	注3参照	
音楽専攻	実技試験(音楽・器楽)		約4時間	テンポ設定、ダイナミクス、リズム、それに音質等が適正に表現されているかをみます。	注3参照	
美術専攻	実技試験(美術・実技)		5時間	形体、量、空間などを描画することにより、美術の基礎的な能力をみます。	注3参照	
生活・健康系	小論文		1時間	勉学を進める上で必要な能力(論理的構成力、総合的判断力等)をみることを主眼とします。	注1参照	
家政専攻	保健体育に関する筆記試験		1時間	保健体育に関する知識を問います。		
保健体育専攻	実技試験		約4時間	基礎的運動能力をみます。	注3参照	
教育人間科学系	面接	1回目: 集団面接/15～20分/面接員複数 2回目: 集団面接/15～20分/面接員複数	約5時間	教育に関する関心や、質問に対する返答の的確さや態度等をみます。		

注1 小論文については、次のとおりです。

(1) 評価に当たっては、次の三点を特に重視します。

- ① 問題のテーマをよく理解し得たか。
- ② 問題のテーマに関連した基礎的な知識を持っているか。
- ③ 記述に当たっての論理の運びが正しく、論旨が明快であるか。

(2) 出題の範囲は、特に限定しません。

注2 音楽専攻の「楽典に関する筆記試験」については、音階、音階、リズム、音符等に関する筆記試験を行います。

注3 実技試験の内容は、次のとおりです。(37・38ページ)

音楽・美術・保健体育専攻実技試験内容

〔I〕音楽専攻

○声楽試験と器楽試験を次のとおり行います。

前期日程

1 声楽試験

次の(1)、(2)を演奏してください。

(1) コールユーブゲン視唱

コールユーブゲン 第1巻 (No.1～No.59) より当日1曲指定します。

【注】 ※ 以下の楽譜を参考にしてください。(試験において使用する楽譜は本学で用意します。)

大阪開成館：『全訳コールユーブゲン』

音楽之友社：『コールユーブゲン 巻1』

全音楽譜出版社：『全訳コールユーブゲン 1』

(2) 以下の歌曲の中から任意の1曲を原語により暗譜で演奏してください。

(a) Scarlatti,A.: Se Florindo è fedele「フロリンドが誠実なら」(変イ長調/変口長調)

(b) Gasparini,F.: Lasciar d'amarti「あなたへの愛を捨てることは」(ハ短調/ト短調)

【注】 ※ 1 調性を必ず選択してください。選択していないものは受け付けません。また、出願後の変更は認めません。

※ 2 伴奏者は本学で用意します。

※ 3 邦訳・調性は全音楽譜出版社『イタリア歌曲集1』によります。

2 器楽試験

選択課題

下記、(a)、(b)いずれかを選択してください。

(a) ピアノ

以下の①、②より各1曲を選び、2曲を演奏してください。演奏曲順は①-②とします。暗譜演奏で、繰り返しは省略してください。

① 任意の練習曲(ただし以下の曲集より選んでください。)

Czerny : Etudes de Mécanisme Op.849 (ツェルニー30番練習曲)

Czerny : Schule der Geläufigkeit Op.299 (ツェルニー40番練習曲)

Cramer=Bülow : 60 Ausgewählte Etüden (クラマー=ビューロー60練習曲)

Moszkowski : Vingt petites études pour piano Op.91 (モシコフスキー20の小練習曲)

【注】 ※ 「ツェルニー」を「チェルニー」と表記してある楽譜もあります。

② 任意の自由曲

(b) 管、弦、打楽器(邦楽器を含む。)

次の①、②を演奏してください。暗譜演奏で繰り返しは省略してください。

① 次の楽器の中から一つを選択し、中級程度以上の任意の楽曲又は練習曲を無伴奏で演奏してください。(4分程度)

管楽器：フルート、オーボエ、クラリネット、サクソフォン、ファゴット、ホルン、トランペット、

トロンボーン、ユーフォニアム、テューバ

弦楽器：ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

打楽器：小太鼓、マリンバ

邦楽器：箏、三味線

【注】 ※ 使用する楽器は各自持参してください。(マリンバは大学のもの〔音域A～C 4½オクターヴ〕を使用し、マレットは持参してください。)

② 任意の楽曲又は練習曲をピアノで演奏してください。

(注) 1 声楽試験及び器楽試験においては、演奏を途中で打ち切ることがあります。

2 受験者は、「様式 前1 実技試験に関する届出用紙」に必要事項を記入の上、他の出願書類とともに提出してください。

後期日程

1 声楽試験

前期日程試験と同じ課題

2 器楽試験

前期日程試験と同じ課題

②1 声楽試験及び器楽試験においては、演奏を途中で打ち切ることがあります。

2 受験者は、「様式 後1 実技試験に関する届出用紙」に必要事項を記入の上、他の出願書類とともに提出してください。

Ⅱ 美術専攻

前期日程

木炭デッサン

・モチーフ、イーゼル、カルトン、木炭紙、定着液は本学で用意します。

・木炭、消具、下敷用木炭紙等は、受験者が持参してください。

・試験時間は5時間です。

後期日程

鉛筆デッサン

・モチーフ、イーゼル、カルトン、描画用紙、定着液は本学で用意します。

・鉛筆、消具等は、受験者が持参してください。

・試験時間は5時間です。

Ⅲ 保健体育専攻

前期日程

1. 基礎的運動能力に関する試験

2. スポーツ種目の技能に関する試験：次のスポーツ種目から1種目を選択

体操競技 陸上競技 ダンス 柔道 剣道 水泳 テニス ソフトテニス バスケットボール バレーボール サッカー 野球 ソフトボール

※ 実技試験に必要な運動用具（グラウンド用シューズ、体育館用シューズ及び選択するスポーツ種目に必要な服装・用具（剣道防具、柔道着、スパイク等）は、受験者が持参してください。

※ 受験者は、「様式 前2 実技試験に関する届出用紙」に必要事項を記入の上、他の出願書類とともに提出してください。（特に出場大会名については、正式大会名を記入してください。）

後期日程

基礎的運動能力に関する試験

※ 実技試験に必要な運動用具（グラウンド用シューズ及び体育館用シューズ）は、受験者が持参してください。

※ 受験者は、「様式 後2 実技試験に関する届出用紙」に必要事項を記入の上、他の出願書類とともに提出してください。（特に出場大会名については、正式大会名を記入してください。）

(2) 個別学力検査等日時

日程	月日	時間		9:00		10:00		11:00		12:20		13:40		16:40		17:30					
		専攻	諸注意	8:30	9:30	10:30	10:40	11:30	12:40	13:40	16:40	17:30									
前 期 2 月 25 日 日 程	2	国語専攻	諸注意	系共通試験 (小論文)				小論文													
		社会専攻																小論文			
		英語専攻																	英語		
		数学専攻																		数学	
		理科専攻																			小論文
		技術専攻																			
	音楽専攻	系共通試験 (小論文)	楽典	実技試験																	
	美術専攻				実技試験																
	家政専攻					系共通試験 (小論文)	小論文	実技試験													
	保健体育専攻								実技試験												
	教育専攻									系共通試験 (小論文)											
	教育心理専攻																				
障害児教育専攻																					

日程	月日	時間		9:00		10:00		10:40		14:00		15:00					
		専攻	諸注意	8:30	10:30	10:40	14:00	15:00									
後 期 3 月 12 日 日 程	3	国語専攻	諸注意														
		社会専攻												面接			
		英語専攻													面接		
		数学専攻														系共通試験 (小論文)	
		理科専攻															実技試験
		技術専攻															
	音楽専攻	実技試験															
	美術専攻		実技試験														
	家政専攻			小論文													
	保健体育専攻				保健体育	実技試験											
	教育専攻						面接										
	教育心理専攻																
障害児教育専攻																	

②1 受験者の入構開始時刻は8時です。諸注意があるので試験開始30分前までは、定められた試験室に入室してください。
2 遅刻した者は、志望する専攻の試験開始後30分までは受験を認めません。ただし、試験時間は延長しません。

(3) 個別学力検査等試験場

試験場	所在地	試験場までの交通について
群馬大学教育学部	前橋市荒牧町4-2	41ページ「4. 個別学力検査等試験場までの交通について」参照

(4) 学力試験等の配点

日程	系・専攻	試験の区分	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点													
			国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	系共通	実技	面接	合計			
前期日程	文化・社会系	文化 国語専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	100	200		300	100				800	
		社会 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	100	200		300	100				800	
		英語 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	100	200	300	100					800	
	自然・情報系	数学 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	200	100	200						800	
		理科 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	300	200	200				300		900	
		技術 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	200	100	200				300		800	
	芸術表現系	音楽 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	100	100	200			100	260	90	700	
		美術 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	100	100	200			100	300		700	
		専攻	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	系共通	実技	面接	楽典	合計	
	生活健康系	家政 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	200	200	200	400	100				900	
		保健体育専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	200	200	200			100	400		900	
		専攻	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	系共通	実技	面接		合計	
	教育人間科学系	教育 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	100	200			300				800	
		教育心理専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	100	200			300				800	
		障害児教育専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	100	200			300				800	
	後期日程	文化・社会系	文化 国語専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	100	200							800
			社会 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	100	200							800
			英語 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	100	400							1,000
自然・情報系		数学 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	300	200	200			200			1,000	
		理科 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	300	200	200			200			1,000	
		技術 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	300	200	200			200			1,000	
芸術表現系		音楽 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	100	100	200			350			700	
		美術 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	100	100	200			350			700	
		専攻	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	系共通	実技	面接	保健体育	合計	
生活健康系		家政 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	200	200	200	150					900	
		保健体育専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	200	200	200			100	150		900	
		専攻	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	系共通	実技	面接		合計	
教育人間科学系		教育 専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	100	200							800	
		教育心理専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	100	200							800	
		障害児教育専攻	センター試験 個別学力検査等	200	200	100	100	200							800	

- ① 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等については、13・14ページを参照してください。
- 2 大学入試センター試験の英語の配点については、筆記とリスニングの合計点(250点満点)に0.8を掛け、200点に換算します。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合及び英語以外の外国語を選択した場合には、筆記の点数(200点)を配点とします。
- 3 後期日程の英語専攻では②の配点に、傾斜配点(×2.0)を行います。
- 4 後期日程の数学専攻、理科専攻、技術専攻では、大学入試センター試験の配点について、「数学」に傾斜配点(×1.5)、「理科」に傾斜配点(×2.0)を行います。
- 5 前期日程及び後期日程の家政専攻及び保健体育専攻では、大学入試センター試験の配点について、「理科」に傾斜配点(2.0)を行います。
- 6 配点に*印を付してある教科は選択科目を表します。
- 7 面接(※印)は総合判定の資料とします。なお、面接時間は状況に応じて変わる場合があります。

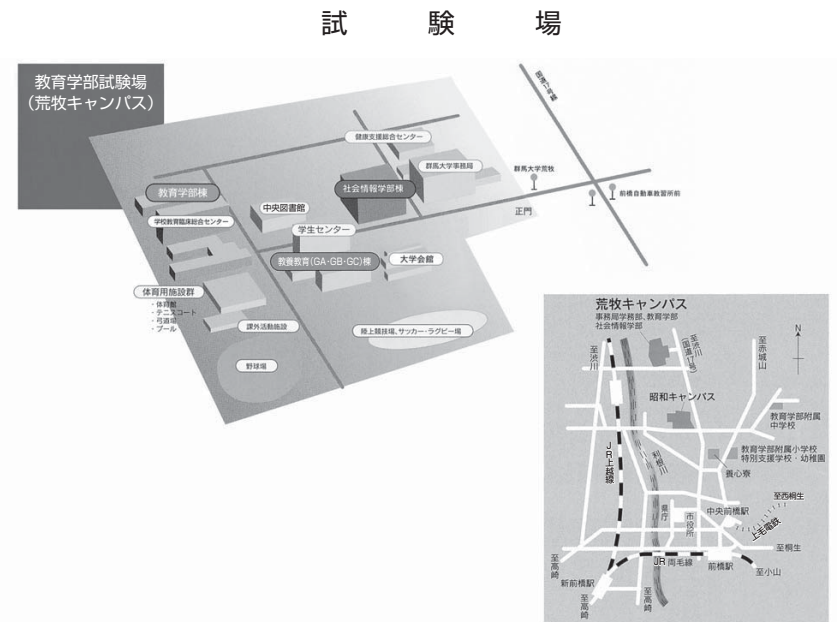
3. 注意事項

- 試験室は掲示(図示)によって案内し、試験室の下見は認めません。
- 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。
- 前期日程の音楽、美術及び保健体育専攻の受験者は、昼食を持参してください。
後期日程の国語、社会、英語、音楽、美術、保健体育、教育、教育心理及び障害児教育専攻の受験者は、昼食を持参してください。
- 群馬大学では、受験の際の宿泊施設等の斡旋は行いません。

4. 個別学力検査等試験場までの交通について

乗車場所	バス行き先案内表示	下車停留所	所要時間	備考
JR両毛線 前橋駅北口 2番乗り場	・群馬大学荒牧校由渋川駅行 ・群馬大学荒牧校由渋川市内循環渋川駅行 ・群馬大学荒牧校由小児医療センター行	群馬大学荒牧	約28分	関越交通バス
	・渋川駅行 ・渋川市内循環渋川駅行 ・小児医療センター行	前橋自動車教習所前	約25分徒歩10分	
JR上越線 渋川駅前	・群馬大学荒牧校由前橋駅行 ・渋川市内循環群馬大学荒牧校由前橋駅行 ・前橋駅行 ・渋川市内循環前橋駅行	群馬大学荒牧	約28分	関越交通バス
		前橋自動車教習所前	約25分徒歩10分	

- *試験場への自動車・オートバイ等の乗入れは、禁止します。
- *JR群馬総社駅及びJR新前橋駅からは、荒牧キャンパスを経由するバスはありませんので、注意してください。
- *公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時刻までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください。



5. 受験心得

- 「群馬大学受験票」及び「大学入試センター試験受験票」を必ず持参し、試験場に入構の際、提示してください。
- 課せられた試験等は、全て受験しなければ失格となります。
- 試験室では、「群馬大学受験票」記載の受験番号と同じ番号の席に着き、本学受験票と大学入試センター試験受験票を机の上の右上隅においてください。
- 遅刻した場合は、入構確認を行っている職員に申し出てください。
なお、試験開始後30分までの遅刻者は、受験を認めます。ただし、試験時間は延長しません。
- 試験時間中は、監督者の指示に従ってください。
- 不正行為を行った者は、失格とします。
- 試験時間中に日常生活騒音等（監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打ち合わせなど、航空機・自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、携帯電話や時計等の短時間の鳴動、周囲の建物のチャイム音など）が発生した場合でも救済措置は行いません。
- 試験開始時には必ず解答用紙（下書用紙とも）に本学受験番号及び氏名を記入してください。
- 途中退場は認めません。
- 試験終了時には、直ちに答案から手を離し、監督者の指示を待ってください。
- 時計は計時機能だけのものとします。
携帯電話や音の出る機器及び録音機（ICレコーダー）等は身に付けてはいけません。必ずアラームを解除し電源を切り、かばんなどにしまってください。
このことを守れない場合は、不正行為と見なされ、受験資格を失うことがあります。
- 数学受験の際は定規（平又は三角）、コンパスの使用を認めます。
- 解答はHBの鉛筆（シャープペンシル可）を使用してください。
- 前期日程の音楽、美術、保健体育専攻の受験者は、昼食を持参してください。
- 後期日程の国語、社会、英語、音楽、美術、保健体育、教育、教育心理及び障害児教育専攻の受験者は、昼食を持参してください。
- このほか受験上の注意事項を試験場に掲示しますから、よく見てください。
- 諸注意があるので定められた時刻までに試験室に入室してください。
- 保健体育専攻の受験者は、実技試験における万一の事故等に備え、健康保険証を持参してください。
- 各実技試験科目の終了時間は、試験実施状況により左表による時間よりも延長される場合があります。

Ⅲ 社会情報学部

1. 志望方法

日程	学科	志望方法
前期日程 後期日程	社会情報学科	

2. 選抜方法

学科名	選抜方法等	大学入試センター試験	個別学力検査等			
			学力試験	面接	小論文	外国語におけるリスニングテスト
社会情報学科	前期	○	○	×	×	×
	後期	○	×	×	○	×

大学入試センター試験、個別学力検査等及び調査書を総合して判定します。

なお、課せられた試験等は、全て受験しなければ失格となります。

(1) 個別学力検査等の教科・科目等

日程	教科・科目等	出題意図	摘要
前期日程	数学 数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B	数学 数学的な知識、能力（計算力、数理的思考力）が備わっているか判断します。	数学又は英語のいずれか1教科を当日選択し、受験してください。また、2教科受験することも認めます。2教科受験した場合は、高得点の教科の成績を用います。
	英語 又は 外国語 コミュニケーション英語基礎、コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ	英語 英語のコミュニケーション能力、表現力を含む多角的な能力の把握。	
後期日程	小論文	広く現代社会に関する諸問題への関心度と理解度をみるとともに、勉学に必要な、長文読解力、論理的思考力、文章表現力等を試します。	

(2) 個別学力検査等日程

前期日程

月日	時間	
	9:00	13:10
2月25日(日)	9:30 諸注意 数学	13:30 諸注意 英語

① 受験者の入構開始時刻は8時です。諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。なお、「英語」のみ受験する場合、試験室へは12時30分以降入室できます。

2 遅刻した者は、試験開始後30分までは受験を認めます。ただし、試験時間は延長しません。

後期日程

月日	時間	
	9:10	11:30
3月12日(月)	9:30 諸注意 小論文	

① 受験者の入構開始時刻は8時です。諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。

2 遅刻した者は、試験開始後30分までは受験を認めます。ただし、試験時間は延長しません。

(3) 個別学力検査等試験場

試験場	所在地	試験場までの交通について
群馬大学社会情報学部	前橋市荒牧町4-2	45ページ「4. 個別学力検査等試験場までの交通について」参照

(4) 学力試験等の配点

日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点								
	試験の区分	国語	数学	外国語	地歴	公民	理科	小論文	合計
前期	センター試験	200	200	200		300			900
	個別学力検査等		*400	*400					400
後期	センター試験	200	200	200		300			900
	個別学力検査等							400	400

(注) 1 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等については、15ページを参照してください。

- 2 大学入試センター試験の英語の配点については、筆記とリスニングの合計点(250点満点)に0.8を掛け、200点に換算します。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合及び英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数(200点)を配点とします。
- 3 前期日程個別学力検査等について、2教科とも受験している場合は、高得点の教科の成績を用います。また、数学及び英語の得点は素点としますが、得点調整を行うことがあります。
- 4 配点に*印を付してある教科は選択教科を表します。

3. 注意事項

- (1) 試験室は掲示(図示)によって案内し、試験室の下見は認めません。
- (2) 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。
- (3) 個別学力検査等において、前期日程で2教科受験する受験者は昼食を持参してください。
- (4) 群馬大学では、受験の際の宿泊施設等の斡旋は行いません。

4. 個別学力検査等試験場までの交通について

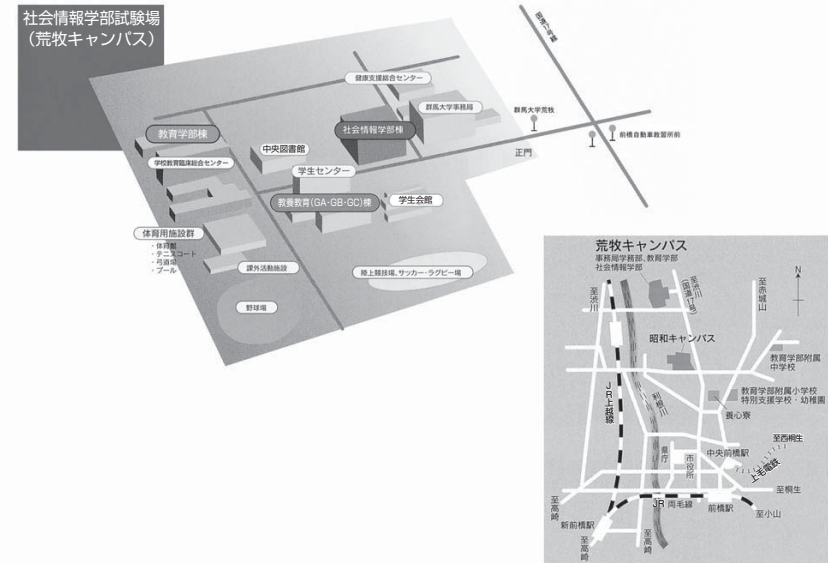
乗車場所	バス行き先案内表示	下車停留所	所要時間	備考
J R 両毛線 前橋駅北口 2番乗り場	・群馬大学荒牧線由渋川駅行 ・群馬大学荒牧線由渋川市内循環渋川駅行 ・群馬大学荒牧線由小児医療センター行	群馬大学荒牧	約28分	関越交通バス
	・渋川駅行 ・渋川市内循環渋川駅行 ・小児医療センター行	前橋自動車教習所前	約25分徒歩10分	
J R 上越線 渋川駅前	・群馬大学荒牧線由前橋駅行 ・渋川市内循環群馬大学荒牧線由前橋駅行	群馬大学荒牧	約28分	関越交通バス
	・前橋駅行 ・渋川市内循環前橋駅行	前橋自動車教習所前	約25分徒歩10分	

※試験場への自動車・オートバイ等の乗入れは、禁止します。

※JR群馬総社駅及びJR新前橋駅からは、荒牧キャンパスを経由するバスはありませんので、注意してください。

※公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時刻までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください。

試験場



5. 受験心得

- 「群馬大学受験票」及び「大学入試センター試験受験票」を必ず持参し、試験場に入構の際、提示してください。
- 課せられた試験等は、全て受験しなければ失格となります。
- 試験室では、「群馬大学受験票」記載の受験番号と同じ番号の席に着き、本学受験票と大学入試センター試験受験票を机の上の右上隅においてください。
- 遅刻した場合は、入構確認を行っている職員に申し出てください。
なお、試験開始後30分までの遅刻者は、受験を認めます。ただし、試験時間は延長しません。
- 試験時間中は、監督者の指示に従ってください。
- 不正行為を行った者は、失格とします。
- 試験時間中に日常生活騒音等（監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打ち合わせなど、航空機・自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、携帯電話や時計等の短時間の鳴動、周囲の建物のチャイム音など）が発生した場合でも救済措置は行いません。
- 試験開始時には必ず解答用紙（下書用紙とも）に本学受験番号及び氏名を記入してください。
- 途中退場は認めません。
- 試験終了時には、直ちに答案から手を離し、監督者の指示を待ってください。
- 時計は計時機能だけのものとします。
携帯電話や音の出る機器及び録音機（ICレコーダー）等は身に付けてはいけません。必ずアラームを解除し電源を切り、かばんなどにしまってください。
このことを守れない場合は、不正行為と見なされ、受験資格を失うことがあります。
- 数学受験の際は定規（平又は三角）、コンパスの使用を認めます。
- 解答はHBの鉛筆（シャープペンシル可）を使用してください。
- 前期日程の2科目受験者は、昼食を持参してください。
- このほか受験上の注意事項を試験場に掲示しますから、よく見てください。
- 諸注意があるので定められた時刻までに試験室に入室してください。

IV 医学部

1. 志望方法

日程	学科	出願区分	志望方法
前期日程	医学科	一般枠	左記出願区分から1つを選び志望してください。
		地域医療枠	
日程	学科	専攻	志望方法
前期日程	保健学科	看護学専攻	第1志望のみとします。
		検査技術科学専攻	
後期日程		理学療法学専攻	理学療法学専攻及び作業療法学専攻を組み合わせ第1、第2志望とすることができます。
		作業療法学専攻	

注1 入学後の転学科は認めていないので、志望選択に当たっては十分留意してください。

注2 保健学科の第2志望専攻について

保健学科の理学療法学及び作業療法学のどちらの専攻にも進学意欲を持つ志願者は、出願の際に第2志望専攻を指定することができます。なお、第2志望専攻の指定は任意です。希望しない志願者は第1志望専攻のみに出願してください。

○ 医学科の出願区分について

下記出願区分のいずれかで出願しても合格者の判定は同一の基準により実施します。

①一般枠

医師や医学研究者等を目指す一般的な選抜枠で、群馬県からの修学資金貸与を希望しない場合の出願区分です。

②地域医療枠

群馬県での将来の医療を担う強い意志を持ち、群馬県からの修学資金貸与を希望する場合の出願区分です。

合格判定の結果、成績が募集人員内（前期日程73名）にあると判定され、成績順に決められる修学資金貸与予定者（前期6名程度）よりも下位であると判定される場合は、一般枠として合格となります。

・群馬県の修学資金貸与制度の概要は、下記の「群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について（一般入試）」を参照してください。

・地域医療枠合格者は、群馬大学医学部や群馬県等が企画する県内医療に関する特別プログラムに参加します。

・地域医療枠合格者は、卒業後10年間は、群馬大学医学部附属病院を含む群馬県内の特定病院の中から選択し、臨床研修及び診療業務に当たります。医師としての柔軟なキャリア形成が可能です。後出のキャリアモデルを参考にしてください。

群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について（一般入試）

1 対象者要件

「4. 出願資格等」（11ページ）に示す出願資格に該当する者であって、次のいずれかに該当するもの（募集人員6名程度）

- 群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校の卒業生若しくは卒業見込みの者
- 群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育又は専修学校の高等課程の修了者若しくは修了見込みの者
- 学校教育法第90条第2項の規定により群馬大学以外に入学した大学の所在地が群馬県にある者
- (3)以外の者で群馬県に所在する大学又は大学院の在学者、卒業(修了)者若しくは卒業(修了)見込みの者
- 上記(1)から(4)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの
 - 出願時の住所が群馬県内にある者
 - 出願時に父母、祖父母又は配偶者のうち、いずれかの者の住所が群馬県内にある者
 - 出願時の本籍が群馬県内にある者

2 提出書類

「5. 出願手続」の7提出が必要な出願書類等(24～26ページ)に示す出願書類のほか、次の書類をあわせて提出すること。
なお、上記1(1)、(2)又は(3)に該当する者は除きます。

- (1)〔1(4)に該当する者〕 在学証明書、卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書
 (2)〔1(5)①に該当する者〕 住民票の写し
 (3)〔1(5)②に該当する者〕 父母、祖父母又は配偶者の住民票の写し及び出願者との関係がわかるもので次のいずれか一つ。
 ・住民票の写し（続柄が記載されているもの）
 ・出願者の出身高等学校等が発行する証明書（任意様式・学校長の証明印があるもの）
 ・健康保険証の写し（続柄が記載されているもの）
 ・市(区)役所、町村役場が発行するもので関係がわかるもの
 (4)〔1(5)③に該当する者〕 市(区)役所、町村役場が発行するもので本籍が証明できるもの
 ※住民票の写しは、出願日前3ヶ月以内に発行されたもので、個人番号（マイナンバー）が記載されていないものとします。

3 貸与期間

6年間

4 修学資金貸与額（予定）

月額 150,000円

※総額 11,082千円（初年度は入学科相当額が加算されて貸与されます。）

5 貸与条件

- (1)群馬県内の地域医療に貢献したいという強い意志を持ち、卒業後、県内の特定病院において、貸与期間の3分の5に相当する期間(10年間＝従事必要期間)、卒後臨床研修及び診療業務に従事すること。
 (2)従事必要期間(10年間)のうち、4年間以上は、群馬県保健医療計画に明記される医師不足地域の医療機関又は特に不足する診療科のうちから被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する医療機関又は診療科に勤務すること。ただし、へき地医療拠点病院又はへき地診療所に勤務する場合は3年間以上とする。
 (3)従事必要期間(10年間)は、群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」に参加すること。

〔補足〕

- ・「医師不足地域」、「特に不足する診療科」は、将来、勤務することとなる時点の保健医療計画に明記されます。
 - ・貸与期間中に修学資金貸与を辞退することは、原則として認めません。
- また、留年した場合は、当該留年に係る期間は貸与を受けることができません。

6 返還

卒業後、県内の特定病院において、従事必要期間(10年間)、卒後臨床研修及び診療業務に従事した場合は、修学資金の返還が全額免除されます。

しかし、次のような場合は、貸与期間に年10%の割合で計算した利息を加算して、貸与した修学資金を返還することが必要です。

- ・貸与条件を満たさないこととなった場合
 (ただし、特定病院における在職期間に応じて、返還が一部免除になります。)
- ・卒業の翌年までの医師国家試験に合格できなかった場合
- ・卒業後、県内の特定病院で臨床研修に従事しなかった場合

7 貸与手続

入試合格後、群馬県による意思確認の面接を経て、群馬県との間で貸与手続（貸与申請書の提出、貸与契約書の締結等）を行います。その際、連帯保証人2名が必要です。

※詳細は別途案内します。

なお、修学資金は、二月ごとにその期間分を貸与する予定です。

《制度の特色》

群馬県による本制度には下記のような特色がありますので、卒後臨床研修先の選定や、その後の診療業務、大学院進学、留学、研修等について、柔軟に計画することが可能となります。

①卒業後に従事する特定病院は、被貸与者が選択することができます。

ただし、「5. 貸与条件」(2)に示す医療機関又は診療料は被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する医療機関又は診療料になります。

②群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」により、卒業後10年間のキャリア形成を支援します。キャリアパスは、地域間・病院間ローテーションにより、キャリアアップと地域医療への貢献を実践できるものです。

③卒業後、従事必要期間は県内の特定病院での従事が必要となりますが、次のようなケースは返還義務中断期間として認められます。

- 疾病・災害等やむを得ない理由により従事できない期間
- 産休・育児休業の期間
- 大学院（医学を履修する課程に限る）に在学する期間や海外留学などの医学研修期間→5年まで可
- 後期研修の一環として特定病院以外の病院に勤務する期間など→3年まで可

《特定病院について》

「県内の特定病院」には、群馬大学医学部附属病院のほか、次の病院が予定されています。いずれも公的な側面が強い地域の中核的な病院です。これらの病院の医師不足解消も大きな目的の一つです。

群馬県立心臓血管センター、群馬県立がんセンター、群馬県立精神医療センター、群馬県立小児医療センター、前橋赤十字病院、公益財団法人老年病研究所附属病院、独立行政法人地域医療機能推進機構群馬中央病院、群馬県済生会前橋病院、前橋協立病院、独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター、医療法人社団日高会日高病院、公立碓氷病院、独立行政法人国立病院機構渋川医療センター、公立藤岡総合病院、藤岡市国民健康保険鬼石病院、下仁田厚生病院、公立富岡総合病院、公立七日市病院、吾妻広域町村圏振興整備組合立中之条病院、原町赤十字病院、西吾妻福祉病院、独立行政法人国立病院機構沼田病院、利根中央病院、伊勢崎市民病院、社団法人伊勢崎佐波医師会病院、桐生厚生総合病院、SUBARU健康保険組合太田記念病院、館林厚生病院

以上のほか、協力型臨床研修病院、へき地診療所、二次救急輸番病院。

《修学資金貸与に関する問合せ先》

群馬県庁 健康福祉部医務課 医師確保対策室 電話：027 - 226 - 2540（直通）

地域医療枠合格者の卒業後のキャリアモデル

- 1) 後期研修の間に、群馬大学大学院医学系研究科の社会人入試制度を利用して、返還義務期間を中断することなく、博士（医学）の学位を取得することもできる。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	初期研修	後期研修
	群馬大学医学部 附属病院や県内の 臨床研修病院 での研修	群馬大学医学部附属病院などの県内の特定病院に勤務し、専門医取得の研修などを行う。この期間中の4年間、群馬大学大学院医学系研究科に社会人入試で入学し、研究論文をまとめ博士（医学）の学位を取得することもできる。

10年間

- 2) 大学院医学系研究科に入学し、先端研究に従事して博士（医学）の学位を取得する。
大学院在学中の期間を返還義務中断期間とする。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	初期研修	大学院医学系研究科	後期研修
	群馬大学医学部 附属病院や県内の 臨床研修病院 での研修	博士課程一般入試で入学して先端研究に従事し、博士（医学）の学位を取得する。 [中断期間]	群馬大学医学部附属病院などの県内の特定病院に勤務し、臨床研究を進めたり、専門医取得の研修などを行う。

中断期間を除く10年間

- 3) 県外での病院研修や海外留学を行い、その期間を返還義務中断期間とする。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	初期研修	後期研修	県外研修	後期研修
	群馬大学医学部 附属病院や県内の 臨床研修病院 での研修	群馬大学医学部附属病院などの県内の特定病院に勤務し、専門医取得の研修などを行う。	県外の病院での臨床技術の習得や海外留学。※ [中断期間]	群馬大学医学部附属病院など県内の特定病院に勤務し、県外で得られた技術を活用したり、専門医取得の研修などを行う。

中断期間を除く10年間

※県外の病院での臨床技術の習得は、特定病院で実施する後期研修のプログラムの一環としての場合に限ります。

- 4) 産休・育児休業の期間を返還義務中断期間とする。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	初期研修	後期研修	産休・育休	後期研修
	群馬大学医学部 附属病院や県内の 臨床研修病院 での研修	群馬大学医学部附属病院などの県内の特定病院に勤務し、専門医取得の研修などを行う。	[中断期間]	群馬大学医学部附属病院など県内の特定病院に勤務する。複数の専門医取得の研修も可能。

中断期間を除く10年間

④上記は、群馬県の修学資金貸与制度の特色である、返還義務中断期間を活用しながら、卒業後のキャリアアップなどを図るモデルケースです。返還義務中断期間の取扱いで御不明な点は群馬県ホームページの「群馬県緊急医師確保修学資金制度」の御案内 (<http://www.pref.gunma.jp/02/d1010069.html>) を御覧になるか、群馬県庁健康福祉部医務課医師確保対策室 (027-226-2540) へお問合わせください。また、キャリア形成については群馬県地域医療支援センター (027-220-7938) へお問合わせください。

2. 選抜方法

学科名	選抜方法等 大学入試センター試験	個別学力検査等				調査書	志願理由書
		学力試験	面接	小論文	外国語におけるリスニングテスト		
医 学 科	前期日程 ○	○	○	○	×	○	○
保健学科(全専攻)	前期日程 ○	×	×	○	×	○	×
	後期日程 ○	×	×	○	×	○	×

- (1) 医学科

大学入試センター試験、個別学力検査等、調査書及び志願理由書（地域医療枠で出願する者のみ）を総合して判定します。出願区分の「一般枠」「地域医療枠」のいずれで出願しても合格者の判定は同一の基準により実施します。

なお、地域医療枠で出願した場合、合格者判定の結果、成績が募集人員内（前期日程73名）にあると判定され、成績順に決められる地域医療枠合格者（前期日程6名程度）よりも下位である場合は、一般枠として合格となります。

課せられた試験等は、全て受験しなければ失格となります。

個別学力検査等（学力試験、面接、小論文）のいずれかに不良のものがあつた場合は、不合格とします。

- (2) 保健学科

大学入試センター試験、個別学力検査等及び調査書を総合して判定します。

課せられた試験等は、全て受験しなければ失格となります。

保健学科の理学療法専攻及び作業療法専攻については、募集人員の一部を第2志望専攻の志願者から選考することがあります。なお、第2志望専攻の合格者となった場合は、第1志望専攻に入学辞退者が出た場合の追加合格者とはなりません。

- (3) 2段階選抜について（医学部医学科のみ）

- ① 医学部医学科では、志願者数が次の倍率を超えた場合にのみ実施します。

学 科	日 程	前 期 日 程
医学部医学科		約3倍

第1段階選抜は、大学入試センター試験の成績（前期日程の選抜における配点）により行い、その合格者を対象に個別学力検査等を実施し、最終的な合格者を決定します。

- ② 発表方法

2月6日（火）頃に、第1段階選抜合格者には受験票PDFを発行します（詳細はメールでお知らせします）。不合格者には不合格通知書及び検定料返還申出書を簡易書留速達郵便で発送します。

なお、2段階選抜を実施しなかった場合は、受験票PDFを全員に発行します（詳細はメールでお知らせします）。2月14日（水）を過ぎても到着しない場合は、群馬大学学務部学生受入課入学試験係（電話 027-220-7150）に問合せください。

※ 2段階選抜実施状況は、群馬大学ホームページ（入試案内）(<http://www.gunma-u.ac.jp/>)に掲載します。

(4) 個別学力検査等の教科・科目等

日程	学 科	教 科 ・ 科 目 等	出 題 意 図	摘 要
前期日程	医 学 科	数 学	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B	数学的な知識、能力（計算力、数理的思考力）が備わっているか判断します。
		理 科	物基、物、化基、化	・ 物理に関する基礎的な知識をみるとともに、基礎的な知識を用いて問題を解析し、的確に表現する総合的な能力を評価します。 ・ 高等学校で学ぶ「化学基礎」及び「化学」から幅広く出題し、化学に関する学習内容の理解度を評価します。
	小 論 文	理系と英語の能力を問うことがあります。	自然科学、人間科学などの勉強に必要な理解力、思考力、文章表現力などを含む総合力を判定する問題を課します。なお、英文の資料を用いて出題することがあります。	
	面 接	集団面接／25分／面接員複数	医学を学び、将来は医学・医療に携わって社会に貢献する人材としてふさわしい人格と適性を評価します。	
保健学科 (全専攻)	小論文Ⅰ	英語の能力を問うことがあります。	英文を読み、論点を的確に理解、把握する能力をみます。	
	小論文Ⅱ	理系の能力を問うことがあります。	物理、化学、生物など理系の基礎学力と理解力、及び自然現象を総合的に捉え考察する能力をみます。	
後期日程	保健学科 (全専攻)	小論文Ⅰ	国語と英語の能力を問うことがあります。	国語と英語を正確に読み、筆者が述べている論点を的確に理解し把握する力があるかどうかをみます。
		小論文Ⅱ	理系の能力を問うことがあります。	自然系を題材とします。 入学後の専門教育修得のための基礎学力を把握するために、理系の基礎学力と理解力に加えて、自然現象を総合的に捉え、考察する能力をみます。

(5) 個別学力検査等日時

前期日程

学 科	月 日	時 間							
		9:00	9:30	11:30	12:40	13:00	15:00	16:00	17:30
医 学 科	2月25日(日)	諸注意	数学		諸注意	理科		諸注意	小論文
	2月26日(月)	受 付 諸注意 (面接の詳細については2月25日(日)に通知します。) 面 接							
学 科	月 日	時 間							
保健学科 (全専攻)	2月25日(日)	9:30	10:00	11:30	12:40	13:00	14:30		
		諸注意	小論文Ⅰ		諸注意	小論文Ⅱ			

後期日程

学 科	月 日	時 間					
		9:30	10:00	11:30	12:40	13:00	14:30
保健学科 (全専攻)	3月12日(月)	諸注意	小論文Ⅰ		諸注意	小論文Ⅱ	

- ① 諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。
 ② 遅刻した者は、試験開始後30分（面接は集合時刻の30分後）までは受験を認めず。ただし、試験時間は延長しません。
 ③ 面接試験時に追加の資料提出は認めません。

(6) 個別学力検査等試験場

日程	学 科	月 日	試 験 場	所 在 地	試験場までの交通について	受付開始時刻
前期日程	医 学 科	2月25日(日)	群馬大学 医 学 部	前橋市昭和町 3-39-22	54ページ「4. 個別学力検査等試験場までの交通について」参照	8時30分
		2月26日(月)				2月25日(日)に通知します
保健学科 (全専攻)	2月25日(日)	9時				
後期日程	保健学科 (全専攻)	3月12日(月)				9時

(7) 学力試験等の配点

日程	学 科	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点										
		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文(I)	小論文(II)	面接	合計
前期	医 学 科	センター試験	100	*50	*50	100	100	100				450
		個別学力検査等				150	150		150		*	450
後期	保健学科	センター試験	200	*100	*100	200	200	200				900
		個別学力検査等						225	225			450
		センター試験	200	*100	*100	200	200	200				900
		個別学力検査等						225	225		450	

① 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等については、15ページを参照してください。

② 大学入試センター試験の英語については、リスニングテストを含み、利用方法については、次のとおりとします。

- 医学科
筆記（200点満点を180点に圧縮）とリスニング（50点満点を20点に圧縮）の合計点を200点満点にし、他の外国語と比較できるようにして利用します。なお、英語選択し、リスニングを免除された場合及び英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数（200点）を配点とします。
- 保健学科
筆記とリスニングの合計点(250点満点)に0.8を掛け、200点に換算します。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合及び英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数(200点)を配点とします。
- 医学科の前期日程では、大学入試センター試験の各教科について、傾斜配点（×0.5）を行います。
- 配点に*印をしてある教科は選択教科を表します。
- 面接（※印）は総合判定の資料とします。なお、面接時間は状況に応じて変わる場合があります。

3. 注意事項

- 試験室は掲示（図示）によって案内し、試験室の下見は認めません。
- 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。
- 受験者は、昼食を持参してください。
- 群馬大学では、受験の際の宿泊施設等の斡旋は行いません。

4. 個別学力検査等試験場までの交通について

乗車場所	バス行き先案内表示	下車停留所	所要時間	備考
JR両毛線 前橋駅北口 2番乗り場	・ 群大病院行 ・ 群大病院経由群馬大学荒牧行 (南橋団地経由含む)	群大病院	約15分	関越交通バス
	・ 渋川駅行 (群馬大学荒牧経由含む) ・ 渋川市内循環渋川駅行 (群馬大学荒牧経由) ・ 小児医療センター行 (群馬大学荒牧経由含む)	群大病院入口	約13分 徒歩6分	関越交通バス
JR上越線 渋川駅前	・ 前橋駅行 (渋川市内循環、群馬大学荒牧経由含む)	群大病院入口	約30分 徒歩6分	関越交通バス

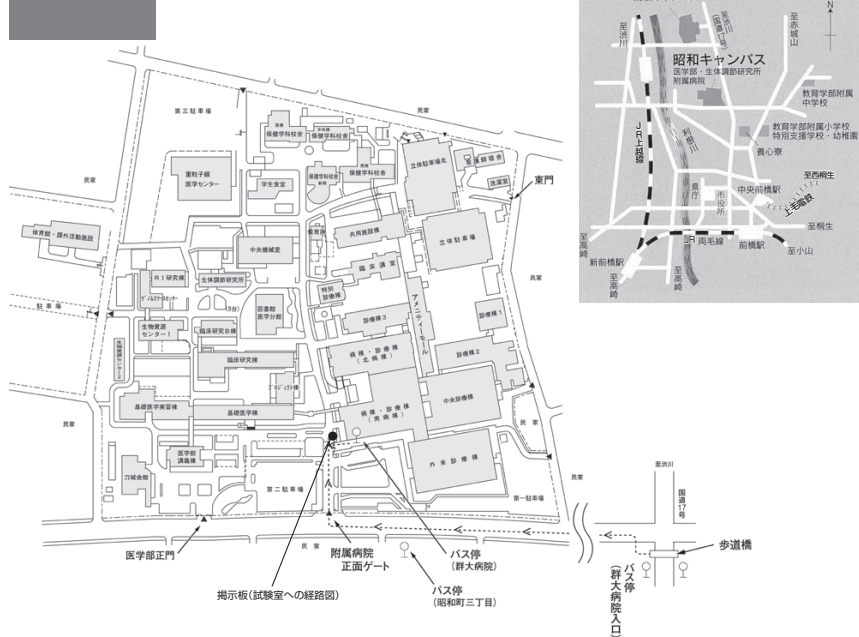
※試験場への自動車・オートバイ等の乗入れは、禁止します。

※JR群馬総社駅及び新前橋駅からは、昭和キャンパスを経由するバスはありませんので注意してください。

※公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時刻までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください。

試 験 場

医学部試験場
(昭和キャンパス)



5. 受験心得

- 1 「群馬大学受験票」及び「大学入試センター試験受験票」を必ず持参し、試験場に入構の際、提示してください。
- 2 課せられた試験等は、全て受験しなければ失格となります。
- 3 試験室では、「群馬大学受験票」記載の受験番号と同じ番号の席に着き、本学受験票と大学入試センター試験受験票を机の上の右上隅においてください。
- 4 遅刻した場合は、入構確認を行っている職員に申し出てください。
なお、試験開始後30分までの遅刻者は、受験を認めます。ただし、試験時間は延長しません。
- 5 試験時間中は、監督者の指示に従ってください。
- 6 不正行為を行った者は、失格とします。
- 7 試験時間中に日常生活騒音等（監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打ち合わせなど、航空機・自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、携帯電話や時計等の短時間の鳴動、周囲の建物のチャイム音など）が発生した場合でも救済措置は行いません。
- 8 試験開始時には必ず解答用紙（下書用紙とも）に本学受験番号及び氏名を記入してください。
- 9 途中退場は認めません。
- 10 試験終了時には、直ちに答案から手を離し、監督者の指示を待ってください。
携帯電話や音の出る機器及び録音機（ICレコーダー）等は身に付けてはいけません。必ずアラームを解除し電源を切り、かばんなどにしまってください。
このことを守れない場合は、不正行為と見なされ、受験資格を失うことがあります。
- 12 数学受験の際は定規（平又は三角）、コンパスの使用を認めます。
- 13 解答はHBの鉛筆（シャープペンシル可）を使用してください。
- 14 昼食を持参してください。
- 15 このほか受験上の注意事項を試験場に掲示しますから、よく見てください。
- 16 諸注意があるので定められた時刻までに試験室に入室してください。

V 理工学部

1. 志望方法

日程	学 科	科名略称	志 望 方 法
前期日程・後期日程	化学・生物化学科	化学生物	左記の5つの学科のうちから1つを選び志望してください。
	機械知能システム理工学科	機械知能	
	環境創生理工学科	環境創生	
	電子情報理工学科	電子情報	
	総合理工学科(フレックス制)	総合理工	

2. 選抜方法

学科名	選抜方法等	大学入試センター試験	個別学力検査等				調査書
			学力試験	面接	小論文	外国語におけるリスニングテスト	
全学科	前期日程	○	○	×	×	×	○
全学科	後期日程	○	×	○	×	×	○

- (1) 大学入試センター試験、個別学力検査等及び調査書を総合して判定します。
ただし、個別学力検査等に著しく不良のものがあつた場合は、上記にかかわらず不合格となることがあります。
- (2) 課せられた試験は、全て受験しなければ失格となります。

(1) 個別学力検査等の教科・科目等

日程	学 科	教 科 ・ 科 目 等	出 題 意 図	摘要	
前期日程	化学・生物化学科 総合理工学科(フレックス制)	数学	数I、数II、数III、数A、数B	数学的な知識、能力(計算力、数理的思考力)が備わっているか判断します。	
		理科	【物基、物】 【化基、化】 【生基、生】	から1つを出願時に選択	物理：物理に関する基礎的な知識をみるとともに、基礎的な知識を用いて問題を解析し、的確に表現する総合的な能力を評価します。 化学：高等学校で学ぶ「化学基礎」及び「化学」から幅広く出題し、化学に関する学習内容の理解度を評価します。 生物：高校までに学ぶ生物について全体として理解できているのかを問います。知識を暗記するだけでなく、図や表を読み取るなどして、その内容について議論できるか、などについて総合的に問うことで、大学で生物学を学ぶための準備が十分であるかを試験します。
				外国語	英語(コミュニケーション英語I、 コミュニケーション英語II、 コミュニケーション英語III)
	機械知能システム理工学科 環境創生理工学科 電子情報理工学科	数学	数I、数II、数III、数A、数B	数学的な知識、能力(計算力、数理的思考力)が備わっているか判断します。	
		理科	【物基、物】 【化基、化】	から1つを出願時に選択	物理：物理に関する基礎的な知識をみるとともに、基礎的な知識を用いて問題を解析し、的確に表現する総合的な能力を評価します。 化学：高等学校で学ぶ「化学基礎」及び「化学」から幅広く出題し、化学に関する学習内容の理解度を評価します。
				外国語	英語(コミュニケーション英語I、 コミュニケーション英語II、 コミュニケーション英語III)
後期日程	化学・生物化学科	個人面接/10分程度/面接員複数			
	機械知能システム理工学科	個人面接/15~20分/面接員複数		基礎能力並びに勉学に対する意欲・将来展望等に関する質問を行い、総合的に判断します。	
	環境創生理工学科	集団面接/約20分/面接員複数			
	電子情報理工学科	個人面接/約10分/面接員複数			
総合理工学科(フレックス制)	個人面接/約10分/面接員複数				

(注) 英語について、試験問題にはマークシートにより解答するものがあります。必ずHBの鉛筆を持参してください。

(2) 個別学力検査等日時

時間		9:00	11:30	12:40	15:55	17:10	
月日		9:30	11:30	13:00	15:00	16:10	
前期日程	2月25日(日)	諸注意	数 学	諸注意	理 科	諸注意	英 語
後期日程	3月12日(月)	諸注意	面 接				

注1 受験者の入構開始時刻は8時です。諸注意等があるので、試験開始時刻30分前までには、定められた試験室に入室してください。

2 遅刻した者は、試験開始後30分までは受験を認めません。ただし、試験時間は延長しません。

(3) 個別学力検査等試験場

前期日程の試験場は、桐生・東京の2か所に開設します。

後期日程の試験場は、桐生のみです。

試験場区分	試験場	所在地	試験場までの交通について
前期日程	桐 生	群馬大学理工学部 桐生キャンパス	桐生市天神町1-5-1
	東 京	中央大学理工学部	東京都文京区春日1-13-27
後期日程	桐 生	群馬大学理工学部 桐生キャンパス	桐生市天神町1-5-1

59ページ「4. 個別学力検査等試験場までの交通について」を参照

注) 前期日程の志願者は、桐生・東京の2か所の試験場から1か所を必ず指定し、インターネット出願ページで試験場を選択してください。なお、指定した試験場の変更は認めません。

(4) 学力試験等の配点

日程	学 科	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点								
		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	面接	合計
前期	化学・生物化学科 機械知能システム理工学科 環境創生理工学科 電子情報理工学科 総合理工学科(フレックス制)	センター試験	200	*100	*100	200	200	200		900
		個別学力検査等				200	200	100		500
後期	化学・生物化学科 機械知能システム理工学科 環境創生理工学科 電子情報理工学科 総合理工学科(フレックス制)	センター試験	200	*100	*100	200	200	200		900
		個別学力検査等							*	

注1 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等については、15ページを参照してください。

2 大学入試センター試験の英語の配点については、筆記とリスニングの合計点(250点満点)に0.8を掛け、200点に換算します。なお、リスニングを免除された場合については、筆記の点数(200点)を配点とします。

3 前期日程個別学力検査の理科の得点は素点としますが、得点調整を行うことがあります。

4 配点に*印を付してある教科は選択教科を表します。

5 面接(*印)は総合判定の資料とします。なお、面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、合否には影響しません。

3. 注意事項

- 試験室は掲示(図示)によって案内し、試験室の下見は認めません。
- 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。
- 受験者は、昼食を持参してください。
- 群馬大学では、受験の際の宿泊施設等の斡旋は行いません。

4. 個別学力検査等試験場までの交通について

前期日程

(1) 桐生試験場(群馬大学理工学部桐生キャンパス)

JR両毛線桐生駅下車、北方へ2.5km

東武桐生線新桐生駅下車、北方へ4.1km

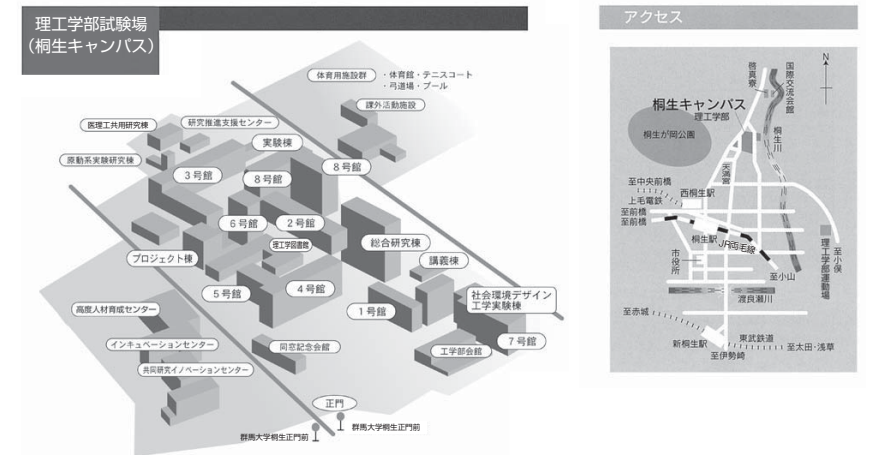
乗車場所	バス行き先案内表示	下車停留所	所要時間
JR両毛線桐生駅北口 おりひめバス「桐生駅北口」	桐生女子高前行 上菱団地行 梅田ふるさとセンター前行	「群馬大学桐生正門前」	約7分
JR両毛線桐生駅北口から 徒歩約10分 おりひめバス「本町五丁目」			約4分
東武桐生線新桐生駅 おりひめバス「新桐生駅」	桐生女子高前行 上菱団地行	「群馬大学桐生正門前」	約15分

* 試験場への自動車・オートバイ等の乗入れは、禁止します。

* 公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時刻までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください。

* 理工学部は、平成25年4月に工学部を改組して設置された学部ですが、施設の名称が「工学部」となっている場合がありますので、御留意ください。

試 験 場



V 理 工 学 部

(2) 東京試験場（中央大学理工学部）

- 東京メトロ丸ノ内線、南北線「後楽園駅」から徒歩5分
- 都営地下鉄三田線、大江戸線「春日駅」から徒歩6分
- JR 総武線「水道橋駅」から徒歩12分



中央大学理工学部 東京都文京区春日 1-13-27

- ※ 試験場への自動車・オートバイ等の乗入れは、禁止します。
- ※ 公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時刻までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください。

後期日程

桐生試験場（群馬大学理工学部桐生キャンパス）

前ページ、前期日程(1)桐生試験場を参照してください。

5. 受験心得

- 1 「群馬大学受験票」及び「大学入試センター試験受験票」を必ず持参し、試験場に入構の際、提示してください。
- 2 課せられた試験等は、全て受験しなければ失格となります。
- 3 試験室では「群馬大学受験票」記載の受験番号と同じ番号の席に着き、本学受験票及び大学入試センター試験受験票を机上の右上隅においてください。
- 4 遅刻した場合は、入構確認を行っている職員に申し出てください。
なお、試験開始後30分までの遅刻者は、受験を認めます。ただし、試験時間は延長しません。
- 5 試験時間中は、監督者の指示に従ってください。
- 6 不正行為を行った者は、失格とします。
- 7 試験時間中に日常生活騒音等（監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打ち合わせなど、航空機・自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、携帯電話や時計等の短時間の鳴動、周囲の建物のチャイム音など）が発生した場合でも救済措置は行いません。
- 8 試験開始時には必ず解答用紙（下書用紙とも）に本学受験番号及び氏名を記入（英語のマークシートについては、受験番号のマークも）してください。
- 9 途中退場は認めません。
- 10 試験終了時には、直ちに答案から手を離し、監督者の指示を待ってください。
- 11 時計は計時機能だけのものとします。
携帯電話等を持参している場合は、必ずアラームを解除し電源を切ってかばんなどにしまってください。身に付けてはいけません。

このことを守れない場合は、不正行為と見なされ、受験資格を失うことがあります。

- 12 数学受験の際は定規（平又は三角）、コンパスの使用を認めます。
- 13 解答はHBの鉛筆（シャープペンシル可）を使用してください。ただし、英語のマークシートについては、HBの鉛筆を使用してください（シャープペンシル不可）。
- 14 昼食は必ず持参してください。
- 15 理工学部東京試験場である中央大学に対し、本学の試験に関する問合せ等をしてください。
- 16 このほか受験上の注意事項を各試験場に掲示しますので、よく見てください。
- 17 受験者の入構開始時刻は8時です。諸注意があるので定められた時刻までに試験室に入室してください。

各学科・専攻の教育ポリシー

教育学部

〔国語専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 高等学校の教育課程、特に人文科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 主体的かつ協働的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 3 国語教育に対して強い探究心を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

古文・漢文を含む国語全般についての科目を履修していること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 幅広く深い教養と国語教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 国語科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、国語専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
 - (1) 教科専門科目
国語科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
 - (2) 教職専門科目
教育の本質、教育課程、国語科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
 - (3) 総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
 - (4) 教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践力指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学期に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 国語科専門科目の内容について必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 国語学、国文学、漢文学、書道についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔社会専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 高等学校の教育課程、特に地理歴史科及び公民科の諸科目について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 人間社会の諸問題に幅広い探究心を持っている人
- 3 自らのことばで表現・発信しながらさまざまな立場の人々と積極的に議論できる人

<入学に際し必要な基礎学力>

- ・ 高等学校で「世界史B」、「日本史B」、「地理B」のうち2科目以上を履修していることが望ましい。
- ・ 高等学校で「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」のうち2科目以上を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 幅広く深い教養と社会科教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 社会科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、社会専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
 - (1) 教科専門科目
社会科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
 - (2) 教職専門科目
教育の本質、教育課程、社会科・地理歴史科・公民科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
 - (3) 総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
 - (4) 教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 実践力指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 社会科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 日本史及び外国史、地理学、法学、政治学、社会学、経済学、哲学、倫理学についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔英語専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 高等学校の教育課程について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解があり、特に英語の「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能をバランスよく身に付けている人
- 2 論理的で柔軟な思考能力を持ち、直面する課題を正しく理解し、自ら判断し、自分の考えを表現する能力を持っている人
- 3 知的好奇心が旺盛で、探究心が強く、主体的に学び、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人
- 4 様々な課題に対して、多様な人々と協働して取り組む姿勢がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

- ・ 入学試験で選択した科目について基礎的知識と総合的理解力を有していることが望ましい。
- ・ 英検2級以上の力を付けておくことが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 幅広く深い教養と英語教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 英語科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、英語専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
 - (1) 教科専門科目
英語専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
 - (2) 教職専門科目
教育の本質、教育課程、英語科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
 - (3) 総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
 - (4) 教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開

- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 英語専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 英語学、英米文学、英語コミュニケーション、異文化理解についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔数学専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について総合的理解のある人
- 2 論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢を持ち、新しい課題に積極的に取り組む意欲のある人

<入学に際し必要な基礎学力>

数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bを履修していること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 幅広く深い教養と数学教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 数学科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、数学専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
 - (1) 教科専門科目
数学科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
 - (2) 教職専門科目
教育の本質、教育課程、数学科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
 - (3) 総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
 - (4) 教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 数学科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 代数学、幾何学、解析学、確率論、統計学、コンピューターについての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔理科専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞

- 1 高等学校の教育課程(特に理科)について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 自然科学と理科教育に対して強い興味・関心を持っている人
- 3 理科の知識に基づいた思考・判断ができ、それを論理的に表現できる人
- 4 周囲の人々と協働しながら、実験・観察に主体的に取り組むことができる人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

物理、化学、生物、地学のうち2科目及び数学Ⅲを履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

- 1 幅広く深い教養と理科教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 理科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、理科専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
 - (1) 教科専門科目
理科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
 - (2) 教職専門科目
教育の本質、教育課程、理科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
 - (3) 総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
 - (4) 教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実験・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実験科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 理科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

- 1 物理学、化学、生物学、地学、物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔技術専攻〕

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 小学校・中学校又は高等学校の教員となる強い意志を有し、在学中から児童・生徒の模範として行動できる人
- 2 論理的で柔軟な思考力を持っている人
- 3 科学技術やものづくりに対して強い興味・関心のある人
- 4 様々な学問分野について自ら積極的に学ぶ姿勢を持っている人

<入学に際し必要な基礎学力>

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む)を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 幅広く深い教養と技術教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 技術科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、技術専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
 - (1) 教科専門科目
技術科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
 - (2) 教職専門科目
教育の本質、教育課程、技術科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
 - (3) 総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
 - (4) 教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実験・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実験科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 技術科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、情報についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔音楽専攻〕

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 高等学校の教育課程、特に「芸術」の「音楽」分野において、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解があり、声楽・器楽等の十分な知識や技能を有している人
- 2 音楽理論をよく理解し、音楽についての深い思考力、判断力、表現力を持っている人
- 3 主体的に、そして多様な人々と協働して学ぶことができ、実践することができる人

<入学に際し必要な基礎学力>

音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（あるいは同等の科目）のうち2つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 幅広く深い教養と音楽教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 音楽科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、音楽専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
 - (1) 教科専門科目
音楽科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
 - (2) 教職専門科目
教育の本質、教育課程、音楽科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
 - (3) 総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
 - (4) 教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 音楽科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 ソルフェージュ、声楽、器楽、指揮法、音楽理論、作曲法、音楽史についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔美術専攻〕

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 高等学校の教育課程、特に芸術を含む人文・社会科学分野等において、大学教育を受けるにふさわしい思考力・判断力・表現力等の総合的学力を身に付けている人
- 2 美術の基礎的な造形表現能力を持ち、美術と社会との関係を深く考えることができる人
- 3 主体的に学び、協働して取り組む姿勢を持っている人
- 4 創造活動や新たな課題に積極的に取り組む意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

- ・ 美術 I を履修していることが望ましい。
- ・ 美術館等に行くことを通して社会や教育における美術の働きについて考える習慣を身に付けていることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 幅広く深い教養と美術教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 美術科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養成科目からなる教養教育により、学力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、美術専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
 - (1) 教科専門科目
美術科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
 - (2) 教職専門科目
教育の本質、教育課程、図工科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
 - (3) 総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
 - (4) 教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開

- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 美術科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論及び美術史についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔家政専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 高等学校の教育課程、特に家庭科や自然科学・社会科学分野の知識と総合的理解力を持っている人
- 2 家政学及び生活科学について主体的に探究し、多様な人々と協働して学べる人
- 3 生活問題や新しい課題に対して自ら思考・判断し、積極的に取り組む意欲のある人

<入学に際し必要な基礎学力>

家庭科、化学や生物などの自然科学分野、公民や歴史などの社会科学分野の知識を有していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 幅広く深い教養と家政教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 家庭科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、家政専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
 - (1) 教科専門科目
家庭科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
 - (2) 教職専門科目
教育の本質、教育課程、家庭科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
 - (3) 総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
 - (4) 教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実験・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実験科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 家庭科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 家庭経営学(家族関係等を含む)、被服学、食物学、住居学、保育学についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

【保健体育専攻】

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 保健体育及び運動・スポーツ活動に興味を持ち、それらに関する基礎的な知識・技能を有する人
- 2 保健体育及び運動・スポーツ活動に関わる課題を見出し、課題解決に向けて思考、判断、表現しながら、粘り強く努力する人
- 3 教職を目指すために、主体的かつ協働的に学ぼうとする人
- 4 子どもたちとともに運動の楽しさや喜びを味わえる人

<入学に際し必要な基礎学力>

- ・ 高等学校までの保健体育に関する基礎的な知識を有している。
- ・ 運動やスポーツ活動における基礎体力及び運動技能を有している。
- ・ 自信を持って実践できる運動やスポーツ活動の経験を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 幅広く深い教養と保健体育科教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 保健体育科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的な指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養成科目からなる教養教育により、学力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的な素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、保健体育専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。具体的に専門科目では、
 - (1) 教科専門科目
保健体育専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
 - (2) 教職専門科目
教育の本質、教育課程、保健体育科の指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
 - (3) 総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
 - (4) 教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的な指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開

- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学期に依りS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 保健体育専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的な指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 体育実技、体育原理、体育心理学、体育史、運動学、生理学、衛生学及び公衆衛生学、学校保健についての専門的な知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的な指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔教育専攻・教育心理専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

<入学者に求める能力・資質>

【教育専攻】

- 1 高等学校で履修した各科目について幅広い知識を身に付けた人
- 2 教育問題など現代社会の諸問題に対する強い探究心を有している人
- 3 教科外の諸活動にも積極的に参加し、多くの人と関わって物事に取り組む経験をしてきた人

【教育心理専攻】

- 1 高等学校で履修した各科目について幅広い知識を身に付けた人
- 2 教育問題など現代社会の諸問題について、様々な観点から思考・判断・表現する力を有している人
- 3 他者とともに物事に主体的に取り組むことを通じて成長してきた人

<入学に際し必要な基礎学力>

【教育専攻・教育心理専攻】

入学試験で選択した科目に限らず幅広く学習していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 幅広く深い教養と教育学、教育心理学及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 小学校教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、教育専攻、教育心理専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的に専門科目では、

- (1) 教科専門科目
教育学、教育心理学の内容に関し深い学識を身に付ける。
- (2) 教職専門科目
教育の本質、教育課程、小学校教科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
- (3) 総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
- (4) 教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実験・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実験科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学期に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 教育学、教育心理学の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 教育学、教育心理学についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔障害児教育専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 高等学校の教育課程について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解のある人
- 2 主体的に学ぶ姿勢と、教員にふさわしい論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 3 特別支援教育に対し、強い意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

特別支援教育に携わる教員にふさわしい、読解・記述の能力、各教科の基礎知識を備えていること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 幅広く深い教養と特別支援教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 特別支援学校の教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、障害児教育専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
 - (1) 障害児教育専門科目
障害に関する深い学識、障害のある児童・生徒の教育に関する理論・方法・技術について学ぶ。
 - (2) 教職専門科目
教育の本質、教育課程、各教科の指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
 - (3) 総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
 - (4) 教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校又は中学校における教育実習、特別支援学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
 - (5) 教科専門科目
各教科の内容に関し深い学識を身に付ける。
上記科目区分で、講義・演習・実験・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実験科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開

- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 特別支援教育及び各自が選択した教科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 特別支援教育の基礎理論、特別支援教育領域（聴覚、知的、肢体不自由、病弱）、特別支援教育領域以外の領域についての専門的知識を修得していること。
- 2 各自が選択した教科の専門的知識を修得していること。
- 3 特別支援学校の教員並びに小学校又は中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 4 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 5 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

医学部保健学科

〔看護学専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

- 1 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
- 2 本学科での学習を通して、学士(看護学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
- 3 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
- 4 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
- 5 看護師・助産師・保健師となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
- 2 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
- 3 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
- 4 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
- 5 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
- 2 基礎的学士力「知識、技能、態度、創造的思考力」を身に付けられる教育
- 3 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
- 4 チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
- 5 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
- 6 看護師国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育
- 7 助産師及び保健師コース受講者については、助産師及び保健師国家試験受験に必要な知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育により、いろいろな考え方を学ぶことで、看護専門職のバックグラウンドとしての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 専門基礎・支持的科目では、保健医療の基礎・在り方を学ぶことで、看護専門科目を学び、実践していくための素養を身に付ける教育を展開する。
- 3 教養教育及び専門・基礎支持的科目を基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的には、専門科目では、

- I 看護学の基礎を学ぶ。
- II 対象や場に応じた看護学を学ぶ。

III I、IIを発展・統合する。

という形式で、講義・演習・実験・実習を行い、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ看護学専攻に定められた単位を修得した者
- 2 看護師に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者
- 3 助産師及び保健師コース受講者については、助産師及び保健師に必要な知識と技術を修得した者

<学修成果の目標>

保健医療・福祉におけるチームの中で看護の専門性を発揮し、ケアの調整やマネジメントにリーダーシップを発揮でき、さらに、国際化の進展に対応して世界の看護に視野を広げ、国際看護協力が実践できる人材になること。

具体的には、

- 1 全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
- 2 医療の基礎となる、人間と生活・社会の理解や論理的・科学的思考を高める学問などについて修得していること。
- 3 看護学分野での研究に必要な手法及び思考法の基礎を修得していること。
- 4 看護学の対象となる人間のライフサイクル、人間理解を深める心理学・社会学の基礎理論や看護過程の方法論などの専門的知識と、看護実践能力を修得していること。
- 5 チーム医療を担う一員であることを認識しながら、看護活動の場の拡大に対応した看護実践能力を修得していること。
- 6 国際的な視野を持ちながら、国や地域レベルの健康課題の解決とシステムづくりに関わる、看護実践能力を修得していること。
- 7 助産師・保健師コースでは助産師・保健師に必要な知識と技術を修得していること。

〔検査技術科学専攻〕

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

- 1 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
- 2 本学科での学習を通して、学士(保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
- 3 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
- 4 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
- 5 臨床検査技師・細胞検査士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
- 2 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
- 3 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
- 4 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
- 5 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
- 2 基礎的学士力「知識、技能、態度、創造的思考力」を身に付けられる教育
- 3 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
- 4 チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
- 5 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
- 6 臨床検査技師国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育
- 7 細胞検査士養成コース受講者については、細胞検査士資格試験受験に必要な知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 これを基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ検査技術科学専攻に定められた単位を修得した者
- 2 臨床検査技師に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者
- 3 細胞検査士養成コース受講者については、細胞検査士に必要な知識と技術を修得した者

<学修成果の目標>

保健医療及び医療の基礎となる生命現象に対する知識・理論を理解し、検査技術科学分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身につけていること。

具体的には、

- 1 全人的医療を理解し、実践するための能力を身につけていること。
- 2 医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、生化学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
- 3 検査技術科学分野の新たな発展に必要な研究手法及び研究的思考法の基礎を修得していること。
- 4 臨床検査技師に必要な検体検査、生理機能検査、病気の早期発見のための検査、遺伝子検査、画像解析などの基礎的・専門的知識と技術を修得していること。
- 5 チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身につけていること。
- 6 国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。
- 7 細胞検査士養成コースでは細胞検査士に必要な知識と技術を修得していること。

〔理学療法学専攻〕

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

- 1 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
- 2 本学科での学習を通して、学士(保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
- 3 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
- 4 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
- 5 理学療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
- 2 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
- 3 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
- 4 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
- 5 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
- 2 基礎的学士力「知識、技能、態度、創造的思考力」を身に付けられる教育
- 3 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身につけられる教育
- 4 チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
- 5 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
- 6 理学療法士国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身につける教育を展開する。
- 2 これを基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ理学療法学専攻に定められた単位を修得した者
- 2 理学療法士に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

保健医療の基礎知識・理念を理解し、理学療法学分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身につけていること。

具体的には、

- 1 全人的医療を理解し、実践するための能力を身につけていること。
- 2 医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
- 3 理学療法学分野での新しい理論や治療技術の研究・開発力の基礎を修得していること。
- 4 理学療法理念を理解し、障害に対する評価方法と、その障害に対する運動療法、物理療法、生活環境支援などの介入方法の基礎的知識と技術を修得していること。
- 5 チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身につけていること。
- 6 国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。

〔作業療法学専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

- 1 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
- 2 本学科での学習を通して、学士(保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
- 3 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
- 4 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
- 5 作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
- 2 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
- 3 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
- 4 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
- 5 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

各入学選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
- 2 基礎的学力「知識、技能、態度、創造的思考力」を身に付けられる教育
- 3 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
- 4 チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
- 5 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
- 6 作業療法士国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身につける教育を展開する。
- 2 これを基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ作業療法学専攻に定められた単位を修得した者
- 2 作業療法士に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

保健医療福祉における病気や障害に関する医学・保健学の知識に加え、人体の構造やメカニズムを理解し、作業療法分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身に付けていること。

具体的には、

- 1 全人的医療を理解し、実践するための能力を身につけていること。
- 2 医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
- 3 作業療法学分野の新たな発展に必要な研究手法及び研究的思考法の基礎を修得していること。
- 4 作業療法士に必要な作業療法の理論、身体障害、発達障害、高齢期障害、精神障害などの専門的知識と実践応用能力を習得していること。
- 5 チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
- 6 国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。

理 工 学 部

〔化学・生物化学科〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、物質の構成原理・物性の解明、新規反応の開発、新規機能材料の創製、生命現象に関わる生理活性物質の機能解明等の諸課題に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え、人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

<入学者に求める能力・資質>

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも化学、生物学分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理(物理基礎を含む)、化学(化学基礎を含む)、生物(生物基礎を含む)(あるいは同等の科目)のうち二つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

我が国の社会を支える研究者・技術者としての倫理観を身に付け、自然科学の基礎知識に立脚し、物質の構成原理・物性の解明、新規反応の開発、新規機能材料の創製、生命現象に関わる生理活性物質の機能解明等について基礎から応用までを学ぶ教育を展開する。

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実験・演習を重視し、専門分野での実践力を養う。
- 3 また、社会的自立に必要なスキルの修得のための科目も提供する。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験の各科目
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、授業外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 教務システム等を利用したポートフォリオ等の記録作成を通しての、自己学習の充実

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科の定める単位を修得した者
- 2 人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持つ者
- 3 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

自然科学に加え、化学に対する総合的な知識・理論の基礎を理解し、物質の構成原理と物性の解明、新規反応の開発に基づく機能材料の創製、及び生命現象に関わる生理活性物質の機能解明等に関する基礎・専門的知識と実践的応用能力を身に付けていること。

具体的には、

- 1 自然科学の基礎となる数学、物理学、化学、生物学などについて、その基礎を修得していること。
- 2 物質(有機・無機・高分子・生体物質等)の性質、構造、反応、機能、合成等及び生物の構造・機能についての基礎的・専門的知識と実践的応用能力を修得していること。
- 3 化学技術者としての基礎技術、理工学技術者としての基礎知識を修得していること。
- 4 国際コミュニケーションスキルの基本を修得していること。
- 5 社会的自立に必要な就業力、社会生活の基礎となる教養と汎用性スキルを修得していること。

【機械知能システム理工学科】

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

幅広い自然科学と人文科学の教養と、機械の工学と技術に関する深遠な専門知識を有し、これをもって人類の持続的な発展と福祉に寄与し、さらに、地球環境との調和を意識しながら新しい機械と機械システムを創造していくことができる柔軟性豊かな高度専門職業人を育成

<入学者に求める能力・資質>

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにあふさわしい総合的理解がある人
- 2 機械とその知能化に興味があり、理工学、中でも物理学、数学分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)と化学(化学基礎を含む。)(あるいは同等の科目)、及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

幅広い自然科学と人文科学の教養と、機械の工学と技術に関する深遠な専門知識を有し、これをもって人類の持続的な発展と福祉に寄与し、さらに、地球環境との調和を意識しながら新しい機械と機械システムを創造していくことができる柔軟性豊かな高度専門職業人を育成するための基礎から応用までを学ぶ教育を展開する。

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のための、実験・実習・演習を重視し、専門分野での実践力を養う。
- 3 以上の知識、実践力を表現するプレゼンテーション力、英語力の向上に必要な科目を提供するとともに、社会的自立に必要なスキル修得のための科目も提供する。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実習・実験の各科目
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、授業外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 教務システムの利用、ポートフォリオ(自己診断シート)や学習記録表などを活用した自己学習の充実

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。また、ディプロマ・ポリシーの学修成果の目標の各項目の達成度は、ポートフォリオ(自己診断シート)等を通して学生が確認する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科の定める単位を修得した者
- 2 人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持つ者
- 3 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

幅広い自然科学と人文科学の教養と、機械の工学と技術に関する深遠な専門知識を有し、これをもって人類の持続的な発展と福祉に寄与し、さらに、地球環境との調和を意識しながら新しい機械と機械システムを創造していくことができる能力を身に付け、柔軟性豊かな高度専門職業人として社会に貢献する能力を有していること。

具体的には、

- 1 幅広い教養を身に付け、科学技術が人間社会や環境に与える影響を健全に判断・評価できる能力、及び技術者倫理を修得していること。
- 2 自然科学の本質と基礎原理を十分に理解し、論理的思考により、工学的問題に応用できる能力を修得していること。
- 3 エネルギー変換のプロセスを正確に理解し、エネルギー的に最適で、しかも環境に配慮した機械の設計や開発に寄与できる知識を修得していること。
- 4 機械材料の特性・本質・限界を理解するとともに、機械の設計、製造、運用、廃棄にわたるライフサイクルを通して、最適な材料及びその加工方法の選定ができる能力を修得していること。
- 5 機械の構造や機構・運動の解析能力を身に付け、電子情報技術を融合し機械の知能化を進めることができる知識を修得していること。
- 6 機械・人類・環境の調和を基礎とした機械知能システム理工学を学修し、目的に合った機械システムを設計・創造する能力を修得していること。
- 7 自ら問題を発見し、それを解決する手法、いわゆるデザイン能力を身に付け、さらに、未知なる問題に挑戦する精神を持ち、将来の先端的技術開発に携わることができる素養を身に付けていること。
- 8 自らの研究成果や意見を具体的に表現し、発表・伝達する能力を修得していること。また、語学能力及び国際的に協調できる能力を修得していること。
- 9 問題に対して他者と議論し、協力し、協調しながらチームとして解決し、発展させてゆくチームワーク力を身に付けていること。

〔環境創生理工学科（環境エネルギーコース）〕

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、物質とエネルギーの性質を理解し、それらの流れと取支を捉えた上で、環境問題やエネルギーに関する諸課題、又は自然環境との調和を図りながら、種々の社会基盤施設の計画・設計・施工・維持管理に関する諸課題に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え、人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

<入学者に求める能力・資質>

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも物理、化学分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。)及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

我が国の社会を支える研究者・技術者として、自然科学の基礎知識に立脚し、物質・エネルギー収支に基づくプロセス設計、化学工学、及び環境理工学等を基礎から応用までを学ぶ教育を展開する。

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、本コースが定める学修成果の目標を達成するための専門教育を、カリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実験・演習を重視し、専門分野での実践力を養う。
- 3 自ら課題を見出し、積極的に解決へ向けて進められるスキルを修得するための科目を提供する。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験の各科目
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、授業外の自己学習の督促
- 4 学生が自分自身で学習・教育目標の達成状況を逐次確認できるためのポートフォリオ(自己診断シート)等の活用

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。また、ディプロマ・ポリシーにおける学修成果の目標の各項目の達成度は、ポートフォリオ(自己診断シート)等を通して学生が確認する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科及び本コースの定める単位を修得した者
- 2 人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持つ者
- 3 職業人、技術者、研究者としての自覚を持つ者

<学修成果の目標>

自然科学、化学工学に対する総合的な知識・理論の基礎を理解し、物質・エネルギー収支に基づくプロセス設計、化学工学、及び環境理工学等に関する基礎・専門的知識と実践的応用能力を修得するために、以下の五つの学習・教育目標を掲げる。

- 1 自然科学の基礎となる数学、物理学、化学、生物学などについて、その基礎を修得していること。
- 2 物質・エネルギー、化学工学、環境理工学についての基礎的・専門的知識と実践的応用能力を修得していること。
- 3 化学工学技術者・理工学技術者としての基礎知識・基礎技術を修得し、かつ自ら課題を分析し、実施計画を組み立てる能力を修得していること。
- 4 国際コミュニケーションスキルの基本を修得していること。
- 5 社会的自立に必要な就業力と汎用的スキルを修得していること。

〔環境創生理工学科（社会基盤・防災コース）〕

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、物質とエネルギーの性質を理解し、それらの流れと取支を捉えた上で、環境問題やエネルギーに関する諸課題、又は自然環境との調和を図りながら、種々の社会基盤施設の計画・設計・施工・維持管理に関する諸課題に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え、人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも物理、化学分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む)、化学(化学基礎を含む)及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

我が国の社会を支える研究者・技術者としての倫理観を身に付け、自然科学の基礎知識に立脚し、自然環境との調和を図りながら、種々の社会基盤施設を計画・設計・施工・維持管理することのできる幅広い知識を持った人材を育てる教育を展開する。

＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、本コースが定める学修成果の目標を達成するための専門教育を、カリキュラムマップに則って系統的に行う。
- 3 自ら課題を見出し、積極的に解決へ向けて進められるスキルを修得するための科目や、社会的自立に必要なスキルを身に付けるための科目を提供する。
- 4 日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定基準を満たす教育を展開する。

＜教育内容・方法＞

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた科目の設定
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標達成に向けた、授業外の学習の督励
- 4 学生が自分自身で学習・教育目標の達成状況を逐次確認できるためのポートフォリオ（自己診断シート）等の活用

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。また、ディプロマ・ポリシーにおける学修成果の目標の各項目の達成度は、ポートフォリオ(自己診断シート)等を通して学生が確認する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科及び本コースの定める単位を修得した者
- 2 人文科学、社会科学及び自然科学と理工学の関わり合いを理解し、土木工学の専門技術に関する知識とそれらを活用できる者
- 3 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

社会の要請する水準を満たす土木技術者としての素養を身に付けていること。具体的には、

- 1 グローバルな視野と基礎学力：人文・社会・自然科学と工学の関わり合いを理解し、工学の基礎素養を修得していること。
- 2 土木工学の専門知識と応用学力：土木工学主要分野の基礎を身に付け、様々な対象へ展開できる能力の基礎を修得していること。
- 3 自然環境・社会環境との調和及び技術者倫理：技術が自然環境・社会に与える影響や効果及び技術者倫理の基礎を修得していること。
- 4 課題の提案・解決能力：社会や技術の要請から自ら課題を見出し、解決するための思考及び行動力が身に付いていること。
- 5 コミュニケーション能力と国際性：論理的思考能力や、他者との協調性を身に付け、積極的に国内外の技術等に関心を持つ態度を身に付けていること。
- 6 課題の分析・計画立案能力：自ら課題を分析し、実施計画を組み立てる能力を修得していること。
- 7 自主的・継続的学習法の修得：自主的、継続的に学習する能力を修得していること。

〔電子情報理工学科（電気電子コース）〕

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

個々の多様な探究心に応える基礎から応用までを網羅した体系的な教育と、質の高い学修支援に基づいて、自然科学、特に数学・物理学・化学の基礎知識に立脚し、電気・電子・情報分野の理工学に関する深い造詣を身に付けるとともに、これらを基礎とした新たな学術領域や応用分野の開拓に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野と倫理観を有する、社会で広く活躍できる人材の育成

<入学者に求める能力・資質>

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、身に付けた知識・能力を社会・地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも数学、物理学を基盤とする分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む)、化学(化学基礎を含む)(あるいは同等の科目)のうち一つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

技術者として必要となる数学、物理学、化学などの自然科学のみならず、電気電子工学の基礎理論から応用技術までを網羅した体系的なカリキュラムを通じて、電気電子工学に関連した幅広い基礎知識を身に付けるとともに、課題解決のための論理的思考に基づいた応用力と倫理観を有し、科学技術の発展にグローバルに貢献できる人材を育てる教育を展開する。

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に人文科学、社会科学、自然科学、及び外国語教育などの教養教育を編成し、技術者としての幅広い教養を身に付けるとともに、国際コミュニケーション能力の基礎となる科目を提供する。
- 2 電子情報理工学の基礎的理解と、専門教育への円滑な移行を目的とした専門基礎科目を初年次に提供する。
- 3 勤労観・職業観の形成により、職業人、技術者、研究者としての将来像を主体的に設計する教育科目を初年次を中心に提供する。
- 4 2年次以降に学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に展開する。電気電子工学の基礎となる科目から、応用技術に関連する科目まで幅広く提供し、さらに、演習科目を充実させ、論理的な思考力と実践的な応用力を養う。また、技術者としての倫理観と社会的自立につながる就業力を養う科目を提供する。
- 5 卒業研究を実施し、論理的思考に基づく課題解決への応用力と、論理的に発表し討論する能力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 シラバスに記述されたカリキュラムを構成する各授業科目の目的、内容(概要、方法、スケジュール)による授業の展開と、評価基準及び成績評価方法に基づいた評価の実施
- 2 各授業科目の学修成果の到達目標に向けた、学生の主体的・能動的な参加の督促
- 3 シラバスに記載の授業外学習情報を活用した授業外の主体的な学修機会(予習と復習)の提供

<学修成果の評価>

各授業科目の成績をシラバスに記載の評価方法に基づいて評価し、学期に定められた基準に照らしてS、A、B、C、Dの5段階で評定し、学修成果を評価する。さらに、各授業科目の評定を基にしてGPAを算出する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科及びコースの定める単位を修得した者
- 2 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持ち、電気電子工学の発展に国内外で貢献しようとする者
- 3 主体的に課題を発見し、論理的に課題を解決する能力を持つ者

<学修成果の目標>

数学、物理学、化学などの自然科学の基礎知識に加え、計算機を利用するための基礎知識、並びに電子情報理工学に関する基礎及び専門知識を身に付け、論理的思考により科学、工学に関する問題に応用する能力を修得していること。

具体的には、

- 1 自然科学の基礎となる数学、物理学、化学などについて、その基礎を修得していること。
- 2 電磁気学、電気回路などの電気電子工学の基礎知識を修得した上で、電子材料、電子デバイスの知識を身に付け、素子の設計開発に応用できる基礎能力を修得していること。
- 3 エネルギー変換や光エレクトロニクス、計測制御技術の知識を身に付け、最適なシステムの設計開発に応用できる基礎能力を修得していること。
- 4 情報通信やコンピュータのハードウェア及びソフトウェア技術の知識を身に付け、情報及び回路システムの設計開発に応用できる基礎能力を修得していること。
- 5 社会人のみならず国際人としての教養を持ち、英文技術資料を理解し英語によるコミュニケーション基礎能力を修得していること。
- 6 社会的自立につながる就業力と技術者としての倫理観を持ち、自ら課題を発見し他者と協調しながら計画的に解決する能力を修得していること。また、多面的かつ客観的に物事を捉え、その研究成果を論理的に発表し討論する能力を修得していること。

〔電子情報理工学科（情報科学コース）〕

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

個々の多様な探究心に応える基礎から応用までを網羅した体系的な教育と、質の高い学修支援に基づいて、自然科学、特に数学・物理学・化学の基礎知識に立脚し、電気・電子・情報分野の理工学に関する深い造詣を身に付けるとともに、これらを基礎とした新たな学術領域や応用分野の開拓に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野と倫理観を有する、社会で広く活躍できる人材の育成

<入学者に求める能力・資質>

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、身に付けた知識・能力を社会・地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも数学、物理学を基盤とする分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む)、化学(化学基礎を含む)(あるいは同等の科目)のうち一つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

技術者として必要となる数学、物理学、化学などの自然科学のみならず、情報科学の基礎理論から応用技術までを網羅した体系的なカリキュラムを通じて、情報科学に関連した幅広い基礎知識を身に付けるとともに、課題解決のための論理的思考に基づいた応用力と倫理観を有し、科学技術の発展にグローバルに貢献できる人材を育てる教育を展開する。

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に人文科学、社会科学、自然科学、及び外国語教育などの教養教育を編成し、技術者としての幅広い教養を身に付けるとともに、国際コミュニケーション能力の基礎となる科目を提供する。
- 2 電子情報理工学の基礎的理解と、専門教育への円滑な移行を目的とした専門基礎科目を初年次に提供する。
- 3 勤労観・職業観の形成により、職業人、技術者、研究者としての将来像を主体的に設計する教育科目を初年次を中心に提供する。
- 4 2年次以降に学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に展開する。情報科学の基礎となる科目から、応用技術に関連する科目まで幅広く提供し、さらに、演習科目を充実させ、論理的な思考力と実践的な応用力を養う。また、技術者としての倫理観と社会的自立につながる就業力を養う科目を提供する。
- 5 卒業研究を実施し、論理的思考に基づく課題解決への応用力と、論理的に発表し討論する能力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 シラバスに記述されたカリキュラムを構成する各授業科目の目的、内容(概要、方法、スケジュール)による授業の展開と、評価基準及び成績評価方法に基づいた評価の実施
- 2 各授業科目の学修成果の到達目標に向けた、学生の主体的・能動的な参加の督促
- 3 シラバスに記載の授業外学習情報を活用した授業外の主体的な学修機会(予習と復習)の提供

<学修成果の評価>

各授業科目の成績をシラバスに記載の評価方法に基づいて評価し、学期に定められた基準に照らしてS、A、B、C、Dの5段階で評定し、学修成果を評価する。さらに、各授業科目の評定を基にしてGPAを算出する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科及びコースの定める単位を修得した者
- 2 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持ち、情報科学の発展に国内外で貢献しようとする者
- 3 主体的に課題を発見し、論理的に課題を解決する能力を持つ者

<学修成果の目標>

数学、物理学、化学などの自然科学の基礎知識に加え、計算機を利用するための基礎知識、並びに電子情報理工学に関する基礎及び専門知識を身に付け、論理的思考により科学、工学に関する問題に応用する能力を修得していること。

具体的には、

- 1 自然科学の基礎となる数学、物理学、化学などについて、その基礎を修得していること。
- 2 計算や情報を視点とした情報科学の数学理論を身に付け、応用する能力を修得していること。
- 3 計算機の構造と原理、計算機による効率的な計算の方法、及び計算機システムの基礎知識を身に付け、それらに関する技術を開発する能力を修得していること。
- 4 計算機に推論や認識などの知的機能を実現するための理論を身に付け、その技術を開発する能力を修得していること。
- 5 社会人のみならず国際人としての教養を持ち、英文技術資料を理解し英語によるコミュニケーション基礎能力を修得していること。
- 6 社会的自立につながる就業力と技術者としての倫理観を持ち、自ら課題を発見し他者と協調しながら計画的に解決する能力を修得していること。また、多面的かつ客観的に物事を捉え、その研究成果を論理的に発表し、討論する能力を修得していること。

〔総合理工学科〕

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、理工学分野の諸課題に既存の学問分野の枠にとらわれず意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

<入学者に求める能力・資質>

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学に対して広い興味と強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

<入学に際し必要な基礎学力>

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。)、生物(生物基礎を含む。)(あるいは同等の科目)のうち二つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

バランスのとれた理工系総合基礎学力の統合的教育を目標とする。化学・生物、機械知能、環境創生、電子情報のいずれかを主たる専門分野とするとともに、それらの分野全体を俯瞰した見方や考え方を教育する。

<教育課程の構成>

初年次から高年次にわたり開設する理学系教育科目、基礎的内容を中心とする学科専門科目、先端的専門知識及び実践力を修得させる「総合理工学先端特別研究」を開講するとともに、学生の目的に応じたカリキュラム設計が可能になるように理工学部の上すべての開講科目を受講可能とし卒業単位とする。

<教育内容・方法>

多くの履修可能な科目から各自の目標に到達するのに必要な科目を組織的に履修できるように、まず、主として修得したい専門分野を、化学・生物、機械知能、環境創生、電子情報から選び、この専門分野ごとに配置されたメンター教員の助言と協力の下、毎学期ごとに履修カリキュラムを作成していくというオーダーメイドなきめ細かい指導を行う。これにより幅広い受講可能科目から、本人に必要な基礎的・専門的知識を修得させる。その上で、先端的専門知識及び実践力を修得させるため、「総合理工学先端特別研究」の履修を求める。

特に、夜間主修学を行う社会人有職者には、リカレント教育として、理工学の最新の知識を理工学の全分野について提供し、本人の専門以外の分野も広く学ぶプログラムを提供する。

また、昼間主修学を行う者には、十分な専門性が保証され多様な学修目標に対応可能な四つの専門教育プログラム(化学・生物専門教育プログラム、機械知能専門教育プログラム、環境創生専門教育プログラム、電子情報専門教育プログラム)を提供する。この専門教育プログラムでは、各対応学科の必修・選択必修の履修条件を満たした上で、メンターや専門指導教員の指導の下で、理工学部の全分野の履修の機会を用意する。専門教育プログラムの修了者には修了認定書を発行し、受けた教育の専門性を保証する。

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科の定める単位を修得した者
- 2 人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持つ者
- 3 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 自然科学の基礎となる数学、物理学、化学などについて、その基礎を修得していること。
- 2 化学・生物、機械知能、環境創生、電子情報のいずれか一つ以上の分野に関する基礎・専門的知識と実践的応用能力を身に付けていること。
- 3 前記分野での技術者としての基礎技術、理工学技術者としての基礎知識を修得していること。
- 4 国際コミュニケーションスキルの基本、社会的自立に必要な就業力、社会生活の基礎となる教養と汎用性スキルなどを修得していること。
- 5 理工学分野において、俯瞰的な見方に基づき、自らの目的に沿った学修を進められること。

実技試験に関する届出用紙（前期日程 音楽専攻志願者用）

群馬大学教育学部

前期日程出願用書類等

氏名				受験番号	※		
1 声楽試験	次の2曲より1曲を選び、(a)、(b)いずれかを○で囲んだ上で、調性も○で囲んでください。						
	(a)	Scarlatti,A. : Se Florindo è fedele 「フロリンドが誠実なら」	変イ長調	変ロ長調			
	(b)	Gasparini,F. : Lasciar d' amarti 「あなたへの愛を捨てることは」	へ短調	ト短調			
2 器楽試験	(a)ピアノ (選んだ練習曲集を○で囲み、番号を記入してください。)	①	曲集名	ツェルニー30番練習曲 ツェルニー40番練習曲 クラマー=ビューロー60練習曲 モシュコフスキー20の小練習曲			
			番号	第 番			
		②	作曲者				
			作品名				
			作品番号		第 楽章	調	
	(b)管、弦、打楽器	①	楽器名				
			作曲者				
			作品名				
			作品番号		第 楽章	調	
		②	ピアノ				
作曲者							
作品名							
作品番号		第 楽章	調				

※印欄は記入しないでください。

受験番号
※

高等学校卒業後の学歴及び職歴（医学部医学科志願者用）

平成29年3月以前の高等学校卒業者は、卒業後の経歴（予備校、自宅学習、大学在学、大学中退、大学卒業、就職等）を記入してください。

志願者	フリガナ		性 別	男 ・ 女
	氏 名		生年月日	昭和 平成 年 月 日生

年 月 日	学 歴 及 び 職 歴
昭和 平成 年 月 日	
昭和 平成 年 月 日	
昭和 平成 年 月 日	
昭和 平成 年 月 日	
昭和 平成 年 月 日	
昭和 平成 年 月 日	
昭和 平成 年 月 日	
昭和 平成 年 月 日	
昭和 平成 年 月 日	
昭和 平成 年 月 日	
昭和 平成 年 月 日	
昭和 平成 年 月 日	

後期日程出願用書類等

実技試験に関する届出用紙（後期日程 音楽専攻志願者用）

群馬大学教育学部

氏名				受験番号	※			
1 声乐試験	次の2曲より1曲を選び、(a)、(b)いずれかを○で囲んだ上で、調性も○で囲んでください。							
	(a)	Scarlatti,A. : Se Florindo è fedele 「フロリンドが誠実なら」			変イ長調	変ロ長調		
	(b)	Gasparini,F. : Lasciar d' amarti 「あなたへの愛を捨てることは」			へ短調	ト短調		
2 器楽試験	(a)ピアノ (選んだ練習曲集を○で囲み、番号を記入してください。)	①	曲集名	ツェルニー30番練習曲 ツェルニー40番練習曲 クラマー=ビューロー60練習曲 モシュコフスキー20の小練習曲				
			番号	第 番				
		②	作曲者					
			作品名					
			作品番号		第 楽章		調	
	(b)管、弦、打楽器	①	楽器名					
			作曲者					
			作品名					
			作品番号		第 楽章		調	
		②	ピアノ					
作曲者								
作品名								
作品番号				第 楽章		調		

※印欄は記入しないでください。

実技試験に関する届出用紙（後期日程 保健体育専攻志願者用）

群馬大学教育学部

フリガナ			性別	※			
氏名			男・女	受験番号			
生年月日	平成 昭和	年 月 日	出身校	身長	cm	体重	kg
主たる運動クラブ名				経験年数			
従たる運動クラブ名				経験年数			
記録 (中学校卒業後の主要なもののみ)	種目名	ポジション、段・ 発表作品など	出場大会名 (年度)	成績 (記録・賞)	全国(県) ランキング		
体育関係の役員経験	役職名		経験期間				
本学入学後に志望する運動クラブ名							

※印欄は記入しないでください。

上記のとおり相違ありません。

平成 年 月 日

本人氏名